

世界に於ける佛教徒  
復刻版

能海 寛 研究会

大内 青 巒 序  
能海 寛 著

世界に於ける佛教徒

版權所有

序

見色明心と眼に於る佛教徒なるへく聞聲悟道は耳に於る佛教徒なるへし鼻に舌に身に意にいづれか佛教徒なからんや家に在ては家の佛教徒たれ國に在ては國の佛教徒たれ皆其因縁ありて其果報あり因果の昧ますへからざるを知らは國に在ては國の因縁にふさはしき願行あるへく家<sub>1</sub>在ては家の因縁にふさはしき願行あるへし今の世は世界交通の世なりとや謂ゆる世界<sub>1</sub>於る佛教徒たらんことを願ふ者なかるへからす石見の能海氏其因果をあたらめ其願行をあらわして一卷の書<sub>1</sub>筆し名けて世界に於ける佛教徒といへり今の世の急務なるかよ然れども世の謂ゆる世界は我か謂ゆる世界には非

文

序

し我か謂ゆる世界ハ三世十方塵々刹々無邊無盡の世界海のみ世の謂ゆる世界に於る佛教徒に次て我か謂ゆる世界<sub>1</sub>於ける佛教徒たらんことを願ふ者ありや此に在り彼<sub>1</sub>在り我か謂ゆる世界海ハ昨夜忽然芥子に入り去れり故に人これを知らざるよ芥子いつくにか在る鼻頭<sub>1</sub>在り舌端に在り色と爲り來る聲と爲り來る眼を開け耳を開け

文

おもいろや散るもみち葉も咲く花も  
おのつからある法のみすかた

癸巳九月

藹々居士志るす

緒言

一 此書ハ歐洲ニ於ケル宗教革命ノ時代ニ際シテ我佛  
教ハ將ニ世界ニ於ケル佛教タラントス故ニ佛教徒  
ハ之ニ對スルノ一大準備ヲ要スヘキヲ論シタリ  
一 此書ニ論スル所ハ著者カ數年來事ニ接シ時ニ感シ  
テ心潜カニ計考セル所ノ意見ヲハ今一冊トシテ編  
輯セルモノナリ

一 此書ノ題號ニ就キ新佛教徒論ト題セシカ他人ノ勸  
告ニヨリ且ツ意義ニ於テモ大差ナケレハ敢テ世界  
ニ於ケル佛教徒ト名ケタリ

明治二十六年八月

著者

識

緒

言

於世界ニ  
ケルニ  
佛 教 徒

目 次

目	次
第一章	宗教ノ革新 一頁
第二章	新佛教徒 十一頁
第三章	宗教學上ノ佛教 十六頁
第四章	哲學上ノ佛教 二十二頁
第五章	歴史上ノ佛教 二十七頁
第六章	道徳上ノ佛教 三十六頁
第七章	比較佛教學 四十六頁
第八章	散斯克(梵學) 四十八頁
第九章	佛教國ノ探檢 五十四頁
	西藏國探檢ノ必要 五十七頁
第十章	佛教徒ノ聯合 六十二頁

次

目

目次

第十一章	佛蹟回復	六十八頁
第十二章	總會議所	七十一頁
第十三章	巡禮	七十三頁
第十四章	海外宣教	七十六頁
第十五章	佛教學校	八十頁
第十六章	佛典翻譯	八十三頁
第十七章	本山政論 第一	八十四頁
第十八章	本山政論 第二	九十三頁
第一議會論	第二教會組織	第三教職教育
第四實業論	第五財政論	

世界ニ於ケル佛教徒

能海 寬著

第一章 宗教ノ大革命

方今宇内宗教ノ大勢ヲ通觀スルニ今日程宗教大變動ノ時代ハアラサルナリソハ如何ト云フニ先ツ西洋各國ニ於ケル宗教思想ノ大革命是レナリ古來數千年歐米諸國ニ行ハレタル基督教ノ信仰ハ漸ク衰ヘ來タリ歐米人ノ宗教思想ヲシテ充分ナル満足ヲ表セシムルコト能ハザルニ至レリ是レ予カ空論ヲ爲スニアラズ今日歐米宗教ノ新形勢ヲ察スルモノ、明ニ了知スル所ナリ基督教モ等シク是レ宗教ナレハ吾人決シテ之ヲ排斥スル理ナク成ル可クハ從來ノ信仰ヲ繼續セシメンコトヲ祈ル然レモ如何ニセン今日歐米宗教思想ノ變動ハ他動的ニアラスシテ全ク彼レ歐米人自ラノ思想中ヨリ起リタル者ナレハ東洋ニ向ヒテ基督教傳道ノ如キ他動的ノ者ト全ク其性ヲ異ニス予ハ此章ニ於

テ其革新ノ起ル理由並ニ歐米宗教ノ現況ニ就テ少シク述ベント欲ス  
 第一歐米從來ノ宗教ハ唯一ノ基督教ニシテ殆ト基督教ノ外ニ又宗教  
 ナキ有様ナリ而シテ其基督教ヤ極メテ偏頗ナル極メテ淺近ナルモノ  
 ナレハ此教ノ外彼等開明人ノ宗教ナシトセハ誰レカ不滿ヲ懷キ不足  
 ノ心ヲ生セサランヤ今日歐米宗教革命ノ期至リタル所以敢テ怪ムニ  
 足ラス至當ノコト、謂フベシ吾人ハ却テ此革命ノ期カ今日マテ後レ  
 タルヲ怪ムナリ

又基督教ハ哲學ニ反ス西洋ノ學者ハ基督教ヲ証明セント欲シテ神ノ  
 存在又ハ基督ノ教理ヲ學理上考究シツ、其決論ヤ遂ニ無神論ヲ証シ  
 或ハ凡神論ト成リ基督教ニ證スル所ノ神トハ全ク相反スル神ノ存在  
 ヲ証明スルニ至レリ若シ強テ其神ヲシテ基督教ノ神ニ合セシメント  
 セバ益々基督教ヲ否定シ却テ全ク性ヲ異ニスル他教ノ神或ハ他教ノ  
 理ヲ説明スルニ至ルナリ故ニ基督教ハ到底哲學ト一致シテ西洋學者  
 ノ宗教思想ヲ満足セシムルコト能ハザルナリ

又基督教ハ理學トモ衝突シテ生物學ノ研究生理學ノ發達或ハ天文航  
 海等ノ科學ニ反對シ文明ノ害ヲナシ進歩ヲ妨ケタルコト舉テ數フヘ  
 カラス近クハドレーパー氏ノ理學宗教衝突史ヲ讀ムモ其誤ラザルヲ  
 知ルナリ實ニ是レ西洋ニ於テ學者社會ヨリ基督教ノ排斥セラル、ニ  
 至リタル所以ナリ

又西洋ノ政治社會ノ人果シテ基督教ヲ信スルカト問フニ決シテ然ラ  
 ザルナリ國王始メ政界ノ人一般ニ基督教會ニ屬スル者多シト雖モ彼  
 等ノ信仰ハ多ク政界上ノ信仰ナリ予考フルニ今日程強烈ナル戰國ノ  
 時代ハ古來史上ニ見サル所ナリ支那周末ノ戰國ト云ヒ日本豊臣氏前  
 後ノ戰國ト云ヒ何レモ烈シキ戰國タルニ相違ナキモ是皆支那或ハ日  
 本一國內ノ戰亂ナリ之ニ反シテ今日地球上特ニ歐洲ノ如キ彼ノ狹キ  
 間ニ於テスラ二十前後ノ獨立國分裂シテ壁ヲ高クシ堀ヲ深クシテ兵  
 備ヲ嚴ニシ互ニ敵國ノ間隙ヲ伺ヒ弱肉強食優勝劣敗ノ有様ハ是レ最  
 モ烈シキ戰國ナリト謂ハザルベカラズ此激烈ナル戰國ニ於テハ各國

皆人心ノ團結堅カラザルベカラズ宗教ハ國民ヲシテ團結セシムルニ於テ最モ與リテ力アルモノナレハ政府ハ特ニ政略トシテ基督教ヲ保護シ各國獨立ノ教會ヲ設クル要アリ故ニ社會ニ於ケル基督教ハ宗教トシテ存スト云ハンヨリモ政界ノ手段トシテ存スルモノナリト云ハシ方適當ナルカ如シ

而シテ基督教ハ果シテ國家ノ安寧ヲ維持シ平和ヲ持ツ功アル教ナリヤト云フニ予ハ却テ國家ノ安寧ヲ害シ平和ヲ破ルモノナリト云ハントス何トナレハ古來基督教ハ戰爭ヲ以テ發達シ來リタルモノニシテ基督教ノ歴史又ハ歐洲ノ歴史ヲ讀ムモノハ誰カ之ヲ疑フモノアランヤ例ヘハ彼ノ十字軍ノ如キ前後八回百七十八年間ニ渡リ之レカ爲メ幾百萬ノ生命ヲ損ヒシツヤ或ハ新敎革命ノ際ノ如キ或ハ三十年戰爭ノ如キ是レ皆基督教ノ争ヒヨリ生セリ統計學者博士レラニレビ氏ノ調ヘニ依レハ耶蘇紀元以來基督教國中ニ起リタル大戰爭十一種二百八十六中二十八ハ純然タル宗教戰爭ニシテ其他ノ内ニモ王位ノ争ノ

如キ内亂ノ如キモ宗教ノ關係セル戰爭甚タ多シト云フ固ヨリ彼等基督教徒カ宗教ニ熱心ナルハ感スヘシト雖モ社會ノ平和ヲ保チ人心ノ調和ヲ計ルヘキ宗教ニシテ如此ク迄モ戰爭ヲ起シ生命ヲ害スルニ至リテハ教徒不似合ナル行爲ト謂ハザルヘカラス如此ク極メテ戰爭的ノ宗教ハ到底社會ノ排斥ヲ免ルヘカラザルナリ

論シ來レハ今日西洋ニ於ケル基督教ハ僅カニ古來ノ習慣ニ由リテ無識者或ハ婦女子ノ間ニ生存シ得ルモノナリ今日基督教ノ維持セラル、ハ全ク白人ノ忍耐ト勉強ノ力ニ由ルモノナリ人情トシテ自國ノモノヲ保存シ又之ヲ他ニ及ボサントスルハ人ノ常ニシテ基督教又然リ全ク歐米人カ古來共ニ發達シ來リタル教ナルヲ以テ之レヲ維持シ且ツ之レカ傳導ヲ怠ラサルナリ若シ仮リニ基督教ニシテ東洋ニ存シ之ヲ西洋ニ始メテ傳導ストセンカ必スヤ彼等カ基督教ニ對スル駁撃ヤ今日彼等カ佛教ヲ駁スルヨリモ甚シカルヘシニ教ノ理其差實ニ大ナレハナリ

又一ツニハ近世ニ至ル迄ハ各國ノ交通自由ナラズ從テ比較宗教學起ラズ他ニ勝レル宗教アルヲ知ラズシテ甘シテ基督教ヲ信シタルモ若シ一朝白人ヨリシテ此等ノ習慣薄ラキ彼等ヨリ見捨テラル、ニ至テハ基督教自身ハ何ニ由リテ生存シ得ルカ基督教自身ハ恰モ紙幣ノ如ク金貨ノ如キ自ラ價ヒアルモ紙幣ニ於テハソレ自体全ク價ヒナキト同一般ナリ已ニ如斯ク西洋ニ於ケル基督教ハ哲學ニ捨テラレ理學ト爭ヒ歴史ヲ穢ガシ歐米ノ天地又基督教ヲ容ル、餘地ナク政界ノ手段トシテ習慣人情ヨリシテ僅ニ無識者婦女子ノ維持スル所タルモ若シ他ニ優レル教アルヲ知り彼等從來ノ信仰破レテ新ニ信仰ヲ求ムルニ至テハ遂ニ宗教革命ハ早晚歐米ニ於テ免ルベカラサル事ナラン此宗教大革命ノ時期ニ際シテ能ク歐米人ノ宗教思想ヲシテ満足セシメ安心立命ヲ與フル教果シテ何レノ教ナルカ是レ西洋ニ於ケル宗教大革命ノ時代タル所ニシテ是レ今日ノ一大問題ナリ敎家タルモノ、最モ注目スヘキ要点ナリトス

進ミテ又此歐米敎界ノ傾向ヲ見ヨ此宗教革命ヲシテ一層早カラシメ且ツ基督教ノ後任トシテ新現象ヲ呈シタルハ嗚呼時ナル哉佛教ノ進入是レナリ今日歐米ニ於ケル佛教ハ未タ一人ノ敎師ヲ送リタルニアラズ未タ一ノ寺院アルニアラズ然レモ彼等カ一方ニ基督教ノ信仰ヲ難シ他ニ宗教ヲ求ムルノ熱心ヨリシテ遂ニ佛教ヲ傳聞シ佛教ノ基督教ニ優レル宗教ナルコトヲ知ルニ至レリ故ニ彼等カ佛教ニ對スル知識及ヒ信仰ハ未タ深カラズト雖モ已ニ佛教雜誌ヲ發刊シ自ラ佛教徒ナリト稱スルモノ數萬人ノ多キニ達シ遠路ヲ蹈ミテ自ラ東洋ニ佛法ヲ求ムルアリ或ハ佛教ノ傳敎師ヲ派遣セラレンコトヲ切望スルモノ續々輩出スルニ至レリ

以上予カ論ノ誤ラサルヲ証センカ爲メニ左ニ二三ノ例ヲ舉クヘシ多クハ反省會雜誌海外佛教事情等ニ據ル委クハ就テ知ラレンコトヲ欲ス曰ク日耳曼國ノ女子フランシスカアラインデルノ書信中ニ於テ云ヘリ歐洲列國基督教ノ現況ニ由リ眞評ヲ加ヘシメバ唯現今ノ基督教

ハ一個ノ死骸而已トノ一言ヲ以テセンノミ妾ハ兄等ト共ニ佛尊ノ純淨ナル教義ヲ世界ニ宣揚シ西洋各國ヲシテ尙高尙純正ナル宗教ノ理解ヲ得シメント欲ス云々又呂宋島米國領事ラツセルウエツプ氏ハ云ヘリ今日ノ教會ハ往々外形ニ流レ虚儀ニ陥リテ無漏神智ヲ探究スルノ能力ナシ爰ニ於テカ彼思慮アル人物ハ其教會ヲ去リテ他ニ解答ヲ求メント欲スルハ亦勢ヒノ自然ニシテ現時我カ米國人士ノ思想自由ヲ尊崇スル徒カ續々基督敎ヲ拋棄スル傾向アルハ又茲ニ源因セスンハアラズト論シ又一統宗教ハ純潔ナル佛敎ナリト言ヘリ又英京倫敦ヨリノ通信ニ由ルニ英國佛敎ノ景況ヲ大別スレハ左ノ四類トス一翻譯的運動ニ出版的運動ニ新聞的運動ニ四講義的運動ナリトテ一々例ヲ擧ゲ最後ニ於テ右四種ノ運動上ヨリ觀察ヲ下セハ表面耶蘇敎國ニ相違ナシト雖モ裏面佛敎ノ眞味ヲ好ム者實ニ數ヲ知ラズ一言ニ英國ノ宗教ニ評言ヲ下セハ表ニ耶蘇敎ノ看板ヲ示メシ裏ニ佛敎ノ腹卷ヲシメシタリヤガテ十九世紀ノ寒氣去リ二十世紀ノ春ニ遭遇セハ英國人

民ハ耶蘇敎信者ノ看板ヲ脱シテ唯佛敎ノ腹帶ニテ大運動ヲナサンコトハ目下ノ事實ニ照シテ明々白々タリカ、ル歐洲ノ事情ヲモ知ラズ他ニ目的ヲ有スル宣教師ノ甘言ニ誘惑セラレテ耶蘇敎ヲ奉スル日本人アルハ氣ノ毒ノ至リナリト云フベシト又彼ノオルコット氏ノ英文佛敎問答ハ十五ヶ國ノ國語ニ翻譯セラレ又獨乙ニ於テ佛敎信徒ノ戶數八十餘アリト報シ或ハ佛國ノ佛敎徒ハ近來益々其數ヲ増シ巴里ニ於テハ三萬有餘ノ佛敎者アリトハ二三年前ノ報ナリ又愛蘭土ニアリテハジョンストン嬢ノ熱心佛敎ヲ説クカ如キ又佛光新聞或ハ光明及壽ト稱スル雜誌發刊ノ如キ歐米ニ於ケル佛敎カ益々隆盛ニ向ヘル徵証ナラスヤ其他如此キ例擧テ數フヘカラズ

又獨乙近世ノ大哲學家シヨツベンハウエル氏ハ印度ノ宗教ヲ研究シ特ニ佛敎ノ道理ヲ應用シテ一家獨特ノ新説ヲバ歐洲ノ中心ニ於テ説キ佛敎ノ眞理ヲバ西洋ノ學者社會ニ紹介セリThe World as Will and Idea (英譯ニ就テ知ラルベシ又先ニ云ヒシドレーバー氏ノHistory of the

Conflict between Religion and Science (小栗栖氏譯學敎史論ノ如キフライデー  
レル氏ノ宗敎哲學ノ如キマクスミューラー氏ノ宗敎學ノ如キ或ハ文  
學トシテハエドゥヰンアーノルド氏ノ亞細亞ノ光釋尊ノ傳記ノ如キ  
何レモ直接ト間接ト差アリト雖モ哲學上宗敎學上文學上等ニ於テ佛  
敎ノ道理ヲ發揮シ或ハ基督敎ノ不完全ヲ知ラシメ而シテ彼ノ宇宙神  
敎或ハユニテリアン敎ノ興リテ今日ノ理學哲學ニ基キ廣ク眞理ヲ世  
界ニ求メテ惟一眞神ノ存在ヲ説クト雖モ是レ畢竟從來ノ基督敎カ哲  
學理學ト常ニ衝突ヲ來タスヨリシテ之レニ反動シテ興リタルモノナ  
リ故ニ學理ヲ説クト雖モ殆ト歴史ナキ信仰薄キ理論ニ偏スル宗敎ナ  
リ予ハ之レヲ宗敎ト稱シ難キモノト考フルナリ何ソ西洋從來ノ基督  
敎ニ代リテ信仰ヲ得ルニ至ランヤ

以上ハ唯大略ナリ然レモ西洋ニ於ケル宗敎大革命ノ期切迫セルコト  
ハ疑フヘカラサル事實ナリ今日コソ敎家タルモノ、奮起スヘキ千古  
未曾有ノ好時期ナリ豈一大活劇ナカルヘケンヤ是レ東洋ニ於テハ舊

佛敎徒ニ對シテ新佛敎徒ノ興ラサルベカラザル所ナリ新佛敎徒出テ  
、始メテ此宗敎大革命ノ波瀾ヲ鎮メ宇内一統宗敎ノ大業ヲ成就スル  
コトヲ得ヘシ今日ノ要ハ唯新佛敎徒ノ勃興是レノミ

## 第二章 新佛敎徒

前章ニ於テ今日ハ西洋ニ於ケル宗敎大革命ノ時代ナルコトヲ述ベタ  
リ次ニ予ハ此章ニ於テ東洋ニ於ケル宗敎亦多端ナル時代タルコトヲ  
論セントス東洋ニ於ケル宗敎ノ多端トハ果シテ如何云ク東洋五億ノ  
佛敎徒ハ是迄外敎ノ刺撃ナク好敵ノ現ハレテ之レト競フコトナク空  
シク拱手シテ安臥シ閑日月ヲ送リタルモ近世歐洲ノ風潮ニ伴ヒテ耶  
蘇敎ノ外敵進入シテ佛敎徒ノ安眠ヲ攪破スルヤ爰ニ始メテ舊佛敎ノ  
大夢ヲ破ラレテ眞實佛陀ノ大光明ヲ發揮シ佛敎ノ眞價ヲ宇内ニ輝カ  
サントスル新佛敎徒ノ勃興セルコト是ナリ西洋ニ於ケル宗敎革命ナ  
キモ已ニ從來ノ舊佛敎徒ニ對シテ新佛徒ノ興起ヲ要ス況ンヤ内ニハ

佛教中興ノ維新ニ際シ之ト同時ニ外ニハ外教ノ刺撃アリ歐米ニ於ケル宗教大革命ノ氣運ニ乗シ益々新佛教徒興起ノ要アルニ於テフヤク第一舊佛教ハ保守的ニシテ新佛教ハ進歩的ナリ第二舊佛教ハ貴族的ニシテ新佛教ハ平民的ナリ第三舊佛教ハ物質的ニシテ新佛教ハ精神のナリ第四舊佛教ハ學問的ニシテ新佛教ハ信仰的ナリ第五舊佛教ハ獨個的ニシテ新佛教ハ社會的ナリ第六舊佛教ハ道理的ニシテ新佛教ハ歴史的ナリ第七舊佛教ハ妄想的ニシテ新佛教ハ道理的ナリト實ニ其意ヲ得タルモノナリ予ハ新佛教徒ノ定義ヲ下スニ於テ敢テ世界ニ於ケル佛教徒ナリト謂ハント欲ス故ニ予ハ世界ニ於ケル佛教徒タル覺悟並ニ其事業ニ就キテ論セントス

新佛教徒カ舊佛教徒ニ對シテ不徳ヲ責メ惡弊ヲ矯ムルハ今日基督教徒カ舊佛教徒ニ對シテ攻撃スルヨリモ却テ嚴重ナリ爾ルヲ今日ノ基督教徒ハ唯舊佛教徒ノ腐朽弊習ヲ排撃シテ以テ佛教ハ命脉ナキモノ

ト思フハ抑々誤解ノ甚シキモノナリ基督教徒ヨ汝カ排スルモノハ新佛教徒モ等シク排ス汝ノ力ナシト思フ所ノ佛教ハ新佛教徒モ到底活カナキヲ知ル而ルニ基督教徒ヨ何ソ外ニ新佛教徒アルヲ知ラサル唯基督教徒ニ希望スル所ハ其教ノ本國タル歐米ニ於テ已ニ腐敗シ學者識者ノ排スル所トナリ理學哲學ノ爲ニ失敗ヲ取リタル今日ノ舊基督教若シ回復ノ手段アラバ新基督教トナリテ新佛教徒ニ對陣セヨ徒ラニ西洋ノ失敗教カ東洋ニ來リテ舊佛教ノ妄夢ヲ破リ以テ得タリ顔ヲ爲スハ新佛教徒ノ深ク憐ム所ナリ到底基督教徒ハ將來ニ望ミナシトセハ汝ノ熱心ヲ以テ佛陀ノ福音ヲ傳ヘ一致協同シテ佛徒ノ擴張ヲ謀レ然レモ又退テ新佛教徒ノ將來ヲ思ヘハ實ニ遠ク前途甚タ多忙ナリ何トナレハ一方ニハ舊佛教徒ノ弊習ヲ矯正シ消極的ノ事業ハ山ノ如ク又進ミテハ新佛教徒ノ本色ヲ盡サン爲メ世界ニ於ケル佛教徒タルノ一大準備タル積極的ノ事業亦海ノ如シ新佛教徒ノ覺悟一大決心ナクンハ容易ニ此大業ハ成就シ得ラレサルナリ不知新佛教徒ノ覺悟ハ如

何又如何ナル策略カアル  
 佛教徒ノ數ヲ以テスレハ基督教徒ヨリモ多ク地球上最大多數ヲ有ス  
 ル教ナルヘシト雖モ慨シテ論スレハ是儀式的佛教ニシテ真正ナル信  
 仰アルモノニ至リテハ甚タ稀レナリ佛教トハ唯寺院僧侶經卷ノ如ク  
 僧ノ職ハ葬儀ノ取扱爾ラサレハ墓地ノ番人ノ如ク見做サル、ニ非ズ  
 ヤ僧侶モ亦品行脩ラズ識徳ナク檀越ノ布施ヲ貪リ教導ノ本職ヲ忘ル  
 、モノ多ク只盛ナルハ葬式年忌御水祈禱御札等ノ如キ末葉ニ走リ僧  
 侶自身ノ位置如何ヲ知ルモノ少シカ、ル舊佛教ハ固ヨリ日本ノミニ  
 就テ云フニアラズ朝鮮支那皆爾カリ暹羅印度等ノ佛教徒モ甚タ精神  
 ニ乏シク特ニ印度緬甸安南ノ如キ英ニ征セラレ或ハ佛ニ領セラレ悲  
 慘ノ境ニ沈メリ爾ラハ此等佛教徒ノ元氣ヲ鼓舞シ各佛教徒同盟シテ  
 進ミテハ宗教革命ノ大業ヲ成就シ退キテハ佛教總体内部ノ大改善ヲ  
 實行シ釋尊ノ聖地佛陀伽耶ヲ回復シテ天下ノ佛徒ヲ一堂ノ下ニ會セ  
 シメ佛教萬歳ヲ稱フル所ノ大責任ヲ有スルモノハ日本佛教徒ヲ除キ

ヲ他ニ求ムヘカラズ此義務アリ責任アル日本佛教徒徒ラニ枕ヲ高ク  
 シテ眠ルヘキ時代ニアラズ大方有爲ノ佛徒何ソ此大業ヲ成就セザル  
 新佛徒ノ業ホド切迫シ且ツ有爲希望アルモノハアラズ此宇内ニ彌滿  
 セル元氣ヲ見透スノ明ト識見ナカラザルヘカラス新佛徒ノ氣ハ已ニ  
 天下有爲人士ノ腦裡ニアリテ未タ有形ノ現象ヲ表サズト雖モ時ニ觸  
 レ事ニ接シテ其氣現レテ佛教新運動ノ端緒ヲ開キ東論西說甲謀乙策  
 闡ニ一途ニ出テ新佛徒ノ運動ハ一ニ此佛陀感化ノ一元氣ヨリ發表シ  
 他日此一新氣運ノ地平線上ニ現出シ完全ナル組織的運動ヲナスニ於  
 テハ一舉手一投足一致契合シテ此元氣ノ命令ニ從ヒテ事ヲ執リ進ム  
 ニ至ラハ向フ所敵ナク新佛徒ノ大業成就センコト今日ヨリ洞察シテ  
 明ナルコトナリ存覺上人言ハク佛闍基ヒ固ウシテ遙カニ梅怛梨耶ノ  
 三會ニ及ビ法水流レ遠クシテ普ク六趣四生ノ群萌ヲ潤サント佛教ヲ  
 シテ世界ノ一統宗教タラシムルノミナラズ廣ク禽獸蟲魚ノ類ト雖モ  
 佛恩ノ光澤ヲ蒙ラザルモノナシ廣大ナル哉佛教新佛徒ノ業モ至大ナ

リト謂ツヘシ  
世界ニ於ケル佛徒タルノ一大準備如何ナル策略カアル新佛徒ノ理想  
順序の事業ノ一班ヲバ後數章ニ於テ漸次論セント欲ス敢テ大方有爲  
ノ士ニ謀ル所ナリ

### 第三章 宗教學上ノ佛教

佛耶兩教ノ優劣ハ何ヲ以テ決スヘキカ固ヨリ哲學上ノ判斷必要ナル  
ヘシト雖モ佛耶兩教共ニ是レ宗教ニシテ唯單ニ哲學ニアラズ爾レバ  
理論上ニ於テ如何ニ勝ヲ制スト雖モ未タ以テ宗教上ニ勝ヲ制シタリ  
ト云フベカラズ宗教ハ哲學ト異ルモノナレハ佛教ト基督教ノ勝敗ハ  
宗教學上ノ問題ニシテ宗教學上ノ判斷ヲ得ルモノナレハ今日此宗教  
學ノ考究必要ナルコト知ルベシ特ニ歐米ニ於テ幾分ニモセヨ佛教上  
ノ知識ヲ得タリシモ此宗教學ノ力ニ由レルモノニシテ宗教革命ノ原  
因モ一ハ之ニ由ルモノナリ此學ニ由リテ始メテ彼歐米人モ基督教ノ

ミカ宗教ニ非ルコトヲモ知リ之ニ由リテ基督教ノ外ニ優レル教アル  
コトヲ知リ佛教ノ知識ヲ得タルナリ宗教學ノ力極メテ大ナリ而シテ  
此宗教學ハ基督教ニ對シテハ不利ナルモ佛教ニ取リテハ最好伴侶ニ  
シテ實ニ是レ今日宗教大變動ノ原因トナリ又能ク此問題ヲ判決スル  
モノナリ何ソ勤メテ此學ヲ學バザル佛教徒敢テ偏頗心ヲ以テ此科學  
ヲ左右シ曲ゲテ此學ヲ應用スルモノニアラズ此學考究ノ結果實ニ如  
斯然ラシムルナリ此學ノ裁判ニ於テ是非曲直優劣眞僞ヲ判決スル法  
廷ナリ此學ニ由リテ始メテ眞正ナル宗教ノ目的ニ達シ高尚ナル信仰  
ノ如何ヲ知ルニ至リ又今後新佛徒カ佛教ノ大改善ヲ行フニ於テモ將  
來ノ事業ニ就キテモ此學ノ考究セル成績其順序方法ニ由リテ組織的  
ニ消極積極ノ事業ヲ爲スニ至リ始メテ此大業ヲ成就シ得ルナリ  
宗教學ハ一科ノ理學ナリ予ハ今充分之ヲ論究スルノ餘地ナシ他日一  
科ノ理學トシテ論セント欲ス故ニ以下只其二三ノ要點ヲ示スノミ  
宗教學ノ起リハ近世歐洲ニ於テ他國トノ交通開ケ歐洲人カ至ル所ニ

於テ宗教ヲ發見シ多クハ基督教傳導ノ手段トシテ之ヲ研究シ各國ノ宗教ヲ纏メテ一科ノ比較宗敎學ナルモノヲ作レリ爾レモ今日云フ比較宗敎學ハ未タ完全ナル宗敎學ト稱スヘカラズ比較ノ外ニモ又宗敎學ノ關スル考究存スレハナリロツツエ氏ケアルド氏等ノ宗敎哲學モハット氏等ノ宗敎歴史モーリー氏ノ世界宗敎論クラーク氏ノ十大宗敎論又ハアルバイテ氏ノ英米及印度宗敎思想進化論等ノ如キ或ハ比較宗敎學或ハ古代宗敎史學等種々必要ナル宗敎學書アリ又宗敎哲學モ未タ宗敎學ト稱スヘカラズ之レ同ク宗敎學ノ一科ナリ世人往々之レヲ混同スルモノナキニアラズ未タ歐米ノ學者ト雖モ完全ナル宗敎學ヲ組織セルモノアルヲ見ズ只其一部ニ就キテ論セルモノナリ爾レハ宗敎學ノ性質ハ如何ト云フニ廣ク諸宗敎ヲ研究シテ其中ニ含有スル成分ヲ分類シ比較シ道理ニ訴ヘ歴史ニ照ラシ以テ宗敎ノ原理法則ヲ明ニシテ真正ナル宗敎ノ發達ヲ圖ルモノナリ今日此不完全ナル宗敎學ヲシテ大成シ完全ナル宗敎ヲ發揮セシムルモノハ新佛敎ノ義務

ナリ何トナレハ完全ナル宗敎ハ佛敎ノ上ニ存スレハナリ爰ニ宗敎學考究ノ順序ヲ舉ケン

第一宗敎ノ種類 宗敎ノ種類ヲバ古今ニ求メ東西ニ探ラハ實ニ無數ナリ古代埃及教猶太教古希臘教波斯教婆羅門教佛敎基督教回教儒教道教神道等ノ如キ又其分派セル宗派數千ヲ以テ數フベシ或ハ宗敎ノ部ニ入ルヘキヤ否ヤダモ判然セサルモノモ多ク之レヲ專門ニ探究スルモ決シテ容易ノ業ニアラザルナリ

第二宗敎ノ分類 宗敎ノ數已ニ多シ之レカ性ヲ分類スルモ又多岐ナルヘシ第一智力的ノ宗敎第二情感的ノ宗敎第三意志的ノ宗敎ト云フ如ク心理學ノ分類ニ由ルモ已ニ如此而シテ又智力的宗敎ニ於テモ或ハ有神敎或ハ萬有神敎アリ又情感的ニ於テモ或ハ厭世敎或ハ樂世敎ノ如キ又ハ意志的宗敎ニ於テモ倫理道德是レ宗敎ナリト論スル如キ說モアリ或ハ戒律ヲ以テ本トスルノ敎モアリ心理的宗敎ノ外ニ哲學的宗敎ノ分類アリ又國民敎アリ普及敎アリ一神敎ト多神敎又ハ主觀

教ト客觀教又ハ天啓教ト自然教顯示教開發教ト云フ如ク其他分類ノ方法ニ由リテハ植物教アリ動物教アリ祖先教アリ偶像教アリ管ニ教理ノミナラズ儀式作方ニ於テモ此所ニ論スベキモノ少シトセス

第三比較宗教學 各教ヲ分類シタル上ハ之ヲ比較研究シテ系統的ニ或ハ互ノ關係上ノ比較ヲナシ理論上教義上ノ比較實際上儀式上ノ比較各教ノ異同聯絡ヲ研究スル時ハ其宗教上ニ於ケル新知識ヲ得原理ヲ探究スルコト明ナリ古來ハ只此比較宗教學ノ名稱ノ下ニ於テ專ラ宗教學ヲ考究シ來リタル程ノ大切ナル事項ナリ

第四宗教哲學 是宗教學中甚タ要用ナル條項ニシテ哲學ト宗教トノ關係神ノ本体心魂ノ區別因果ノ理法等ノ如キ此下ニ於テ考究スヘキコトニシテ心理倫理審美等ノ諸科學ト關係シテ要用ナルコト論ヲ竣タザルナリ

第五宗教歷史學 是レ社會ニ於ケル宗教ノ位置ヲ明ニシ社會學史學等ト密接ナル關係アルモノナレハ宗教ノ歷史ヲ講スルノ要知ルヘキ

ナリ史前ノ宗教ヲ探究スルニハ又人類學ノ助ニ由ラザルヘカラズ

第六宗教進化學 宗教ハ如何ニ發達シ來リタルカ宗教ノ將來ハ如何カ發達シ行クカ進化ノ理法ニ照シ社會進化學ノ一部トシテ宗教學中ニ講スベキナリ世ニ或ハ宗教ニ進化論ノ要ナキヲ説クモノアレトモ社會ハ進化スルルニ社會ノ一要素タル宗教亦進化ノ理法ヲ免ル能ハザルナリ

第七實際的宗教學 是レ宗教ノ儀式等ヨリ社會人心ノ風俗習慣言語禮儀道德倫理ニ及ボセル影響及ビ寺院教會ノ組織僧侶信徒ノ制度國家ト宗教トノ如キ是レ又必要ナル條項ナリ

予ハ以上ノ七ケ條ヲ以テ宗教學ヲ研究スルヲ便利ト考フルナリ何トナレハ歐人宗教學ノ研究モ此外ニ出ザル如シ尙此上ニ組織宗教學ノ一段ヲ設ケテ真正ナル理想的ノ宗教ヲバ宗教學上ヨリ組織シテ之ヲ以テ宗教ノ進歩ヲ涉リ宗教上ノ問題ヲ判スル所ノ標準タラシメント欲ス如此ク宗教ノ眞理理論上明白ナルトキハ無宗教者ニ對シテ宗教

ノ性質ヲ知ラシメ宗教ノ必要ヲ感スルニ至ル宗教學ノ必要予ノ喋々論スルヲ俟タサルナリ佛徒奮ウテ講スヘキハ宗教學ナリ宗教學上ノ佛教ハ諸宗教ノ王ナレバナリ

### 第四章 哲學上ノ佛教

前章中ニ於テ宗教哲學ノ必要ナルコトヲ論シタルモ是レ宗教學ノ一部トシテ論シタルナリ爾レハ一層廣ク哲學上ニ於テ佛教ハ如何ナル位置ヲ有スルカヲ考究センコト必要ナリトス方今我邦ニ於テ佛教ハ哲學ナリヤノ問題ハ最モ人ノ疑フ所ナレモ予ハ敢テ佛教ヲ以テ哲學ナリトシテ論スルモノニアラズ爾レモ佛教ヲハ理論上ヨリ證明セント欲シ又學者識者ヲシテ佛教ノ眞理ヲ了得セシメント欲セハ哲學上ヨリ辨明スルニ如カズ爾レハ哲學考究ノ必要ハ論ヲ俟タザルナリ今日ノ如ク哲學盛ニシテ萬事理論ノ證明ヲ要スル時代ニ於テハ哲理ノ基礎ヲ有スル教ニアラズバ到底今日己後ノ宗教思想ヲ満足セシムル

コト能ハザルナリ基督教ノ敗北ハ實ニ此理論ニ乏キカ故ナリ爾ラハ佛教ヲシテ基督教ニ代ラシメ將來歐米ノ宗教タラシメント欲スル者豈哲學ノ考究ヲ怠リテ可ナランヤ思フニ佛教ハ久シク東洋ニ埋没シテ西洋學者ノ間ニ知ラレザリシヲ以テ未タ普ク其光輝ヲ發揚スルニ至ラスト雖モ少シク其教理ヲ玩味セバ哲理ノ基礎ヲ有スル圓滿宗教ハ恐クハ佛教ヲ措キテ他ニ索ム可カラザルコトヲ知ランサレハ將來ニ於ケル宇内ノ一統宗教ハ佛教ナリト云ヒテ不可ナカラン是レ佛教ヲ一方ヨリ見テ哲學ナリト見倣ス者アル所以ニシテ強チ道理ナキコトニアラズ爾レモ佛教ハ哲學ヲ以テ満足スルモノニアラズシテ又宗教タルモノナリ近來佛教ヲハ哲學上ヨリ説明スルニ至リ佛教ノ理論大ニ發揮セリト雖モ猶今日多クノ佛教徒ハ哲學ニ對スルノ考へ至テ冷淡ニシテ未タ哲學ノ要ヲ知ラザルアリ或ハ又今日已ニ佛教哲學ノ考究ハ完全セルモノ、如ク誤想シ進ミテ之レヲ考究スルノ精神ナキ者多シ哲學ノ進歩ハ決シテ今日ニ止ラズ日進月歩ノ此時代ニ於テ未

タ佛徒満足スヘキノ時ナラズ況ンヤ未タ完備セス佛教廣大七千餘卷  
 八萬四千ノ法門ハ尙々進ミテ考究ヲ要スルニ於テヲヤ  
 哲學的考究ハ幾分理論ニ走リ宗教ニ於テ重スル所ノ相承傳説ニ反ス  
 ルコトナキニアラザルモ古來ノ如ク只文字ニ拘泥シ解釋シ易キコト  
 ヲモ數十年ノ貴重ナル光陰ヲ費シ甚シキハ至ク空想妄談更ニ眞理ノ  
 光明ヲ見ザルカ如キ惡弊ヲ矯ムルニ於テハ其功益ヤ大ナリ古來佛教  
 ノ考究法甚タ以テ遺憾ナキ能ハズ  
 特ニ佛教カ印度ニ興コリ當時婆羅門教九十五種ノ哲學ニ對シテ佛教  
 ノ眞理ヲ發キ雪山ヲ越ヘゴビ砂漠ヲ渡リテ東漸シ東洋各國ニ入ルヤ  
 各國ニ於ケル哲學ト或ハ爭ヒ或ハ混シ支那ニ於テモ儒教道教ノ哲理  
 ニ影響ヲ與ヘ唐宋以後ノ學説ニ於テモ大ニ周漢古來ノ説ニ歩ヲ進メ  
 タリ又佛教カ日本ニ入リテモ神道ト混シテ日本一種ノ佛教ヲ生セル  
 アリ如此各國ニ於ケル哲學ト佛教トノ關係ヲ明ニスルコトヲ要ス彼  
 神道ト稱スル蓮門教天理教ノ如キ事理ノ妙法或ハ天輪王ヲ祭ル如キ

外面神道ナルモ佛教ノ分派トシテ見ルモ可ナリ如此哲學ニ或ハ宗教  
 ニ佛教ノ混入シテ人心ヲ支配スルニ至リタル事實其數甚タ多シ是等  
 ヲ考究スルハ或ハ宗教學ニ屬スルアリト雖モ又哲學トシテ考フヘキ  
 點亦多シ

又彼獨乙ニ於テ有名ナル厭世家哲學者トシテ知ラレタル前ニモ述ヘ  
 タル所ノシヨツペンハウエル氏ノ如キ歐洲ニ於ケル最モ佛教ト關係  
 アル哲學者ナリ氏云ク世界ハ吾カ寫象ナリ而シテ此眞理ハ何ソ計ラ  
 ン數千年前印度ノ大智者ニ由リテ已ニ認メラレタル所ナリ云々又  
 氏ハ同ク世界ハ吾カ意志<sup>ウイ</sup>ナリ佛教ノ皆空般若波羅密多ナリ一切ノ知  
 識ニ超然タル主觀客觀ノ差別已ニ存セザルノ點ナリト云ヒ大般若波  
 羅密ノ境ナリト論セルカ如キ氏ノ哲學骨髓ハ佛教ノ眞理ヲ以テ構成  
 セルモノナリ或西洋ノ學者ハ厭世説ハ歐洲學者ノ近世思想ニ於ケル  
 最終ノ言ナリト云ヘリ實ニシヨツペンハウエル氏ノ哲學ハ歐洲近世  
 ニ於ケル思想ヲ發揮セルモノナリ歐洲ノ中心ニ於テ哲學トシテハ第

一着ニ氏ノ説ヲ以テ顯ハレタルガ今日ハ又一方ニハ宗教トシテ佛教ノ進入ナリ佛教ノ哲學ハ未タシヨツベンハウエル氏ノ哲學ヲ以テ盡セルニアラズ只彼ハ主トシテ印度地方南方ノ佛教ヲ研究セリ未タ北方大乘ノ佛教ヲ學バズ然レハ哲學上ニ於テ佛教カ西洋哲學社會ニ進入スルモ實ニ今後佛教徒ノ奮テ盡スヘキ所ナリトス又スビノザノ凡神説カントノ唯心説ヘーゲルノ理想論等佛教ノ説ト相似タル所決シテ少ナカラズ西洋哲學ノ發達ハ佛教ノ道理益々明白トナルモノナリ而シテ西洋ニ於ケル哲學ノ二大派タル經驗派ト理想派トノ争ハ又佛教上ニ於テモ其影響大ナリ因果ノ法則心識ノ理涅槃等ヲ證スルニ於テモ歐洲近世哲學ニ對シテ注目スヘキ點ナリトス又西洋ニ於テハ佛教ト云ヘハ多ク南方小乗教ヲ意味シ北方大乘佛教ニ對シテハ或非佛説ヲ稱ヘ未タ大乘教ノ眞理ヲ解セス爰ニ於テカ益々彼等ニ對シテ之レヲ説明スルニハ哲學考究ノ必要ヲ感スルナリ

然レモ佛教ヲ以テ決シテ哲學ト混スヘカラス佛教ハ宗教ニシテ信仰

ヲ以テ本質トシテ哲學ハ懷疑的ノモノナリ佛教固ヨリ懷疑的考究ヲ要スト雖モ佛教ノ目的ハ懷疑ニアラズ經驗推理ヲ以テ足レリトセズ吾人心識ノ安心立命轉迷開悟ノ信仰ニアレハ超理的絶對ノモノナリ爾ルニ同シ宗教ト雖モ基督教ノ如キハ哲學已下ニアリテ學理ニ背反スルモノナレハ妄信ト稱シテ可ナリ次ニ宇宙神教惟一教ノ如キハ哲學ト平行同等理論ニ偏スル解信ト稱スルモ可ナリ而シテ終リニ我佛教ハ哲學以上ニ位ヒセル眞正ナル仰信ノ宗教ナリ是レ哲學上ニ於ケル佛教ノ位置ナリ

哲學ト佛教ノ關係容易ニ論シ盡シ得ヘキニアラズ只予ハ此章ニ於テハ哲學ノ必要ヲ論シ來リテ遂ニ佛教ノ位置ヲ定メ佛教ノ妙理ハ哲學以上ニアリテ將來ノ宗教ハ哲學上ニ於テモ佛教カ宇内一統宗教タルヘキ資格アルコトヲ論セルノミ此懷疑信仰ノ二義ニ就キテハ他日世評ヲ乞ハント欲スル所ナリ

第五章 歷史上ノ佛教

若シ佛教ニシテ單ニ哲學ナラハ其釋尊ノ説ナルト否トニ論ナク其説如何ニ區々ナリト雖モ更ニ問フ所ナク只眞理是レ判斷ノミ爾レモ佛敎ハ宗教ナル以上ハ是非釋尊ノ説法シ玉ヘル所タラザルベカラズ又釋尊ハ佛陀ニシテ人間以上ニ位セル三界ノ大導師タル所以佛ノ正傳ヲ得テ以テ大乘非佛説ノ如キ懷疑ノ念ヲ破却セザルベカラズ井上圓了氏ガ佛教活論ニ於テ予ハ釋迦其人ヲ愛ズルニアラズ耶蘇其人ヲ惡ムニアラズ只予カ取ル所ノモノハ眞理ニシテ排スル所ノモノハ非眞理ナリト論シテ佛教ヲハ哲學上ニ於テ判斷セラル、所ハ是レ氏カ哲學ノ一方ヨリ論セラル、所ニシテ此レノミヲ以テ佛教ノ考究足レリトスルハ全ク誤レルモノナリ氏ノ意固ヨリ之レヲ以テ足レリトセラ、ニアラザルコト明ナリ宗教ハ理解ニアラズシテ信仰ニアレハ信仰ハ只道理智力ノミニ由リテ得ラル、モノナラザルコト明ナリ信仰ナキ敎ハ是レ非宗教ナリ佛教徒一般ノ信仰ハ佛法僧ノ三寶ニ歸命スルニアリ爾レハ佛ハ是レ佛教信仰ノ基礎タリ根本タリ

故ニ佛教ノ證明ハ哲學上如何ニ眞理ナルモ之レノミヲ以テ未タ盡セリト云フヘカラス佛教上ノ勝利固ヨリ要ハ要ナリト雖モ宗教上ニ於テハ未タ以テ頼ムニ足ラズ佛教ハ又此外ニ宗教トシテノ考究ヲ要スレバナリ基督教ノ一派タル宇宙神敎或ハ惟一敎ノ如キ學理ニハ假令ヒ佛教ノ道理ヲ加ヘ理學ノ説明ニ由ルト雖モ理論ニ偏セル信仰薄キ敎ナレハ却リテ古來傳リタル基督教ニ及バザルナリ之ヲ以テシテモ歴史上ノ考究ハ未タ以テ宗教ニ於テハ研究ノ半途ニモ至ラザルモノナルコトヲ知ル宗教的考究トハ果シテ如何ト云フニ曰ク歴史上ニ於ケル佛教ノ性質是レナリ

歴史的佛教ノ考究トハ第一ニ釋尊ノ正傳ヲ探求スルコトナリ是レ固ヨリ難事ナリ何トナレハ三千年前ノ事實特ニ歴史ニ暗キ印度古代ノコトナレハ到底完全ナル正傳ヲ得ルコト難キモ出來得ル丈ケ探索ヲナシ今日ニ遺存セル所有ル材料ヲ集メ互ニ比較訂正シテ眞正ナル釋尊ノ傳記ヲ編輯スヘキナリ今日ハ之ヲ研究スルニ於テモ佛教各國ニ

至リ自由ニ調査シ得ラル、ノ時代ナリ大乘非佛說ノ如キモ明カニ解答ヲ得ヘキハ全ク此研究ニヨル

又釋尊ノ年代ニ就キテモ三十餘種ノ異說アリテ其差異甚シキ者ハ殆ト四百有餘年ノ相違アリ是等諸說中正說ハ一ナラザルベカラズ爾ルニ釋尊ノ入滅ニ就キテモ一ハ三千年前ト云ヒ一方ニハ二千五百年前ト云ヒ佛曆一定セズ降誕日ニ於テモ南北ノ教徒其日ヲ異ニシ大小二乘ノ爭ヒヲ生シ甚シキハ南方ノ佛教徒スラモ大乘非佛說ヲ稱フルニ至ル佛教ノ團結上並ニ將來ノ布教上ニ於テ歴史的考究ノ必要切迫セリ吾人ハ古來日本支那ニ於テ僧侶ノミカ用ヒタル佛曆ヲシテ一般佛教徒ノ用フル所トナサンコトヲカムルモノナリ爾レモ如此ナサント欲セハ先各佛教徒ノ一致スル正確ナル証明ヲ得ザルベカラズ

又佛教ガ三千年前印度ニ興リシ已來如何ニ東洋ノ文化ヲ助ケシカ如何ニ人心ヲ感化シ國家ヲ利シ社會ヲ益シ人情風俗習慣言語禮儀等ニ至ルマテ影響ヲ與ヘシカ文學哲學ニ與ヘタル功蹟政治道德ヲ助ケタ

ル過去ノ經歷ヲ明ニシ佛教ノ性質ヲ審ニシ將來ニ於ケル佛教史宗教史ノ基礎トナシ佛教ノ信仰ヲ増長セシメンコト是レ歴史上ニ於ケル佛教ヲ明ニスルモノナリ

佛教從來ノ經歷ニ付キテ考フルトキハ佛教ハ東洋諸國平和ノ中心トナリ人心ニ柔軟和順ナル濃厚篤實ナル良性ヲ作り獨リ人類ノミナラズ凡テ萬種ノ生活物ヲ保護セリ東洋ニ於ケル食物ニ就キテ見ルモ主ニ菜食ニシテ殘忍刻剝ナル肉食ヲ矯メタル如キ佛陀無上ノ大慈悲ノ佛法ヲ演說シ從ヒテ東洋順良ノ風ヲ養成シ來リタリ歐米ニ於ケル基督教ノ如キ戰爭ト共ニ發達セル流血的殺伐的佛教ニ代リテ歐米今日ノ大戰國ニ入り佛陀ノ慈悲ヲ弘通セント欲セハ益々宗教過去ノ經歷ニ照シテ事ヲ執ラザルヘカラズ大無量壽經ニ言ハク佛ノ遊履シ玉フ所國邑丘聚化ヲ蒙ラザルハナシ天下和順ニ日月清明ニ風雨時ヲ以テシ災厲起ラス國豊カニ民安ク兵戈用ルコト無ク徳ヲ崇ヒ仁ヲ興シ務メテ禮讓ヲ修ス佛言ハク我汝等諸天人民ヲ哀愍スルコト父母ノ子ヲ

モノハ佛教ノ外他ニ求ムヘカラズ歴史ニ於ケル佛教又廣大ナルモ  
 ノナリ勉メテ考究スヘキハ佛教史ナリ  
 此所ニ一言辨解シ置クヘキコトアリ即日本ニ於テ佛教徒カ兵亂ヲナ  
 シタルコトナリ予ハ固ヨリ強テ之レヲ辨護セントスルニアラズ只世  
 人ノ誤解ヲ破センカ爲メナリ畏レ多ケレハ白河法皇ガ我自由ニナラ  
 ザルモノハ鴨川ノ水ト叡山ノ僧ナリトノ相闘ヒシガ如キ叡山南都ノ惡  
 テ日本ニ入リタルトキ守屋ト馬子トノ相闘ヒシガ如キ叡山南都ノ惡  
 僧カ兵器ヲ帶ビ戰爭ヲナセシカ如キ石山本願寺ノ合戰ノ如キ是レ日  
 本ニ於ケル佛教ト戰爭トノ關係セル所ナリ之レヲ西洋ニ於ケル基督  
 教徒カナシタル大戰爭ニ比スレハ固ヨリ物ノ數トモ成ラザル小事タ  
 リト雖モ等シク兵戈ヲ用ヒシモノナレハ佛教ノ体面ニ關スルコトナ  
 リ然レモ予ハ之ニ對シテ一言世人ノ妄解ヲ破セントスルナリ第一守  
 屋ト馬子ノ爭ヒニ就テハ大内青巒氏カ馬子ハ佛徒ノ外面ヲ被リタル  
 者ニシテ眞ノ佛教信者ニアラザルコトヲ證據ヲ擧ゲテ論セラレ又一

念フヨリモ甚シ今我此世間ニ於テ作佛シ五惡ヲ降化シ五痛ヲ消除シ  
 五燒ヲ滅絶シ善ヲ以テ惡ヲ攻メ生死ノ苦ヲ除キ五徳ヲ獲無爲ノ安ニ  
 昇ラシメント予嘗テ之ヲ英譯シ彼英國ノ大詩人アーノルド氏ニ示シ  
 タルコトアリ氏一詩ヲ書シテ予ニ與ヘラル

Peace beginning to be,  
 Deep as the sleep of the sea  
 When the stars their faces plass  
 In its blue tranquility;  
 Hearts of men upon earth,  
 From the first to the second birth,  
 To rest as the wild waters rest  
 With colours of Heaven on their  
 breast.

佛教ノ特色又此平和教タルニアリ宗教多シト雖モ最好歴史ヲ有スル

般ニ日本ノ史家モ此争ヒハ獨リ教法上ノ争ヒニアラズシテ全ク政治上ノ争ヒガ此教法問題ノ上ニ顯レタル迄ニシテ開國黨ト保守黨トノニ大政黨上ノ破裂ナリト云フ爾レハ是ヲ以テ佛教ノ戦争ト見做スコトヲ得サルコト明ナリ又次ニ源平二氏戦争ノ前後ニ於テハ當時族制政治ノ爲メニ一世ノ英傑モ力ヲ伸ブルコト能ハズ由リテ當時下賤ヨリシテ立身出世ノ道ハ唯佛門ニ入リテ志ヲ延ベントシ或ハ當時武勇ノ軍人カ或ハ罪セラレテ或ハ其他ノ事情ヨリシテ眞實ノ信仰ナク唯一時ノ手段自利名譽ノ爲メニ僧侶トナリタル者多ク實際佛道修行ノ爲メニ僧侶トナリシ者ハ少ク爲メニ彼等武人勇氣ノ性ハ僧トナルモ依然トシテ舉動ニ顯ハレ武器ヲ携ヘテ亂ヲナス者アリ此風漸ク増上シテ遂ニ叡山南都ノ武僧ヲ生スルニ至リシナリ是レ法皇歎息ノ言ノ出ル所以ナリ爾レハ是亦佛教ノ罪ニ歸スヘカラザルモノナルコト明ナリ又石山軍ノ如キハ被動的防禦ニシテ誰レカ人來リテ頭ヲ撃タントスルニ手ヲ蔽フテ之ヲ防ガザルモノアラシヤ信長ノ所置不當ナ

リレ爲メ止ムコトヲ得ズ如此キ事情ハ違レタリレナリ千ハ以上ノ如キ事ヲ以テ佛教ヲ非難スルハ誤レルモノナリト考フルナリ而シテ一方ヲ見レハ佛教カ國家ノ爲メニ朝廷ノ爲メニ幸福ヲ祈リ安寧ヲ謀リタルコト數フヘカラズ

以上ハ只其一端ヲ辨シタルニ過キスト雖モ又以テ佛教ヲ歴史のヨリ考究スル一例ナリ佛教ハ國家ニ對シテ忠誠ナリシコト人心ヲ感化セシコトハ慈母ノ如クアリシナリ而モ却リテ社會ノ爲メニ佛教カ蒙リタル害實ニ少シトセス淨土宗ノ祖法然聖人ハ四國流罪ノ身トナリ眞宗ノ開祖ハ越後ノ國ヘ日蓮上人ハ佐渡ノ國ヘ何レモ流罪ノ刑ニ處セラレ玉ヘリ爾レモ佛教ハ之レニ抵抗セシコトナキノミナラズ親鸞聖人ノ如キハ却リテ之ヲ以テ偏鄙ノ道俗ニ法ヲ聞カシムル因縁ナリトシテ喜ヒテ配所ニ趣カセラレタリ固ヨリ彼ノマホメツトガ劍トコトラン(經文)ヲ以テ布教シタルカ如キ基督教カ血ヲ流シテ傳導ヲ謀リ征略併呑ノ先鋒タルカ如キトハ全ク其性ヲ異ニセリ如此佛教ノ起原ヨ

リ其傳播ノ模様社會ニ於ケル佛教ノ影響ヲ明ニシ三千年來幾千億ノ人心ヲ教化シ來リタル無上妙法タルヲ知ラハ誰レカ仰テ之レヲ信セサランヤ身ハ王宮ノ太子ニ生レ玉ヒ智ハ是レ三世了達德ハ是レ圓滿無量是レソ三界ノ大導師億兆ノ救主ナリ吾人豈仰キテ世尊ノ高德ヲ拜セザルベケンヤ

第六章 道德上ノ佛教(戒律論)

新佛徒今日ノ興起ハ徒ラニ空理空論上ニ現レタルモノニアラズ理論上ニ於テハ哲學上ノ勝利ヲ得實際上ニ於テハ歷史上最勝ノ佛教タルモ未タ新佛徒ノ本色ハ立タザルナリ如何ニ史上ニ於テハ最上無比ノ佛教タルモ徒ラニ過去ノ經歷ニ止マラハ是レ同ク空論ナリ新佛徒ノ本色ハ此道理アル此歴史アル佛教ヲシテ益々發揮シテ之レヲ實行シ之レヲ實踐上ニ証明シテ實際上ノ佛教タラシムルニアリ口ニ言フハ易クシテ身ニ行フハ難シ故ニ舊佛教ハ只外形虚儀ニ陥リテ實踐躬行

ヲ欠ク是舊佛徒タル所以佛教ノ振ハザル愛ニ起因ス  
法苑珠林ニ云ハク夫レ三界ハ安キコト無ク猶ホ火宅ノ如シ苦サ抜キ樂ヲ與フルニハ必ス須ク戒ヲ崇フヘシ經ノ喻多種ナリ且ク三五ヲ述セン能ク遠路ヲ渉ル之ヲ脚足ニ喻フ一切ヲ勝持ス之ヲ大地ニ喻フ萬物ヲ生長ス之ヲ時雨ニ喻フ善ク衆病ヲ療ス之ヲ良醫ニ喻フ能ク饑渴ヲ消ス之ヲ甘露ニ喻フ沈溺ヲ接濟ス之ヲ橋梁ニ喻フ大海ヲ運度ス之ヲ浮囊ニ喻フ昏闇ヲ照除ス之ヲ燈光ニ喻フ非ヲ除キ惡ヲ止ム之ヲ戒善ニ喻フ解脱ニ歸趣スルコト終ニ尸羅ニ藉リ法身ヲ莊飾ス之ヲ瓔珞ニ喻フ如是キ喻亦無量ナル有リ豈之ヲ敬セサランヤ意ヲ勵マシテ奉持セヨト又云ハク夫レ世俗ノ尙フ所ハ仁義禮智信也含識ノ資ル所ハ不殺盜姪妄酒也道俗相乖クト雖凡漸ク教ニ通ス云々又言ハク夫レ以ミレハ業道遠クシテ希フコト難ク淨心近ウシテ惑ヒ易シ山ヲ爲スコトハ一簣ヨリ基ヒシ佛ト爲ルコトハ初念ヨリ起ル故ニ萬里ノ尅ニモ初歩ヲ離ル、トキハ而モ登ラス三祇ノ功モ始心ニ非スシテハ而モ就

クコト罔シ是ニ知ス行人發足シテ常ニ此心ヲ歩シ初學ヲ開示スルニハ須ク十善ヲ崇フヘシ今已ニ五濁交々亂レ過犯滋々彰ル作サレハ則チ已ナン作サハ便チ極テ重シ乃至善因微ナリト雖モ果ヲ得ルコト甚タ大ナリ小燭火ノ能ク大山ヲ燒クカ如ク一善ハ能ク大惡ヲ破ス亦小燈ノ能ク多闇ヲ破リ輕日ノ能ク重露ヲ消シ小子ノ能ク大樹ヲ生スルカ如シ世事尙ホ然リ何ニ況ンヤ善力ヲヤト又涅槃經ニ云ハク佛性ヲ見大涅槃ヲ証セント欲セハ必ス深心ニ淨戒ヲ修持スヘシ若シ淨戒ヲ毀ルモノハ是レ魔ノ眷屬ナリ我カ弟子ニ非スト又智度論ニ云ハク若シ大利ヲ求ムルモノハ當ニ堅ク戒ヲ持チテ重寶ヲ惜ムカ如ク身命ヲ護スルカ如クスヘシ戒ハ是レ一切善法ノ住處ナルヲ以テナリ又云ハク足無クシテ行カント欲シ翅無クシテ飛バント欲シ船無クシテ渡ラント欲スルカ如ク若シ淨戒ナクシテ妙果ヲ得ント欲スルモ亦復如是シ云々ト已上ノ如キ經論ノ文末代ノ遺弟ヲ戒メ玉ヘル金言擧ゲテ數フヘカラズ然ルヲ如何ニ末代下根トハ云ヘ今日ノ破戒無戒ノ弊習

難レカ之レヲ慎ミザル者アラシヤ今日佛教徒中南方印度暹羅ノ教徒ハ嚴重ニ戒律ヲ持ツト雖モ小乘ノ戒ニ屬ス固ヨリ如何ニ高尚ナル大乘ノ教法ソ口ニスルモ道德ノ脩ラザル大乘教徒ニ比スレハ萬々勝レタル佛徒タルニ相違ナキモ今日大ニ考フヘキコトハ持戒ハ世ノ進歩ニ伴フコトヲ得ルカ否カノ一大問題ナリ予ハ嘗テ此問題ヲバ佛教徒ノ討論題トシテ某會ニ提出シタルコトアリシモ難且ツ大ナル問題ニシテ容易ニ判決スヘキニ非サレハ其一小部ニ縮メテ殺生戒ハ世ノ進歩ニ伴フコトヲ得ルカ否カトノ問題ニ付キテ論シタルモ尙ホ充分ナル論定ヲ得サリキ是レ佛教徒ノ大ニ考究スヘキ問題ナリト信ス戒律ハ佛門中ニ於テ最モ肝要ナルコトニシテ戒律ニ由リテ禪定ヲ得而シテ始メテ智慧ヲ得ルナリ又戒律ハ佛教道德ノ基本ナリ而シテ予カ此問題ニ就キテ考フル所ハ所謂大乘菩薩ノ戒法ヲ以テ此難問ヲ說明セントスルモノナリ戒律ニ於テモ其種類多ク大乘ノ戒小乘ノ戒アリ男女戒ヲ異ニシ僧俗ノ戒ニ區別アリ又數ニ於テモ五戒八戒十善戒

二百五十戒五百戒等ノ如キ區別アリテ若シ小乗ノ戒律ノミニ由ルト  
 キハ佛教ハ全ク厭世の出世間一徧ノ佛教トナリテ世間一切ノ群生ヲ  
 救助スルコト難シ故ニ社會ノ進歩スルニ於テ常ニ世ト衝突シテ社會  
 ト共ニ進ミ社會ヲ益スルコト難シ爾ルニ大乘菩薩ノ教ヘニ從フトキ  
 ハ世ノ文明ト共ニ進ミ社會ノ先達トナリテ利益ヲ計ルコトヲ得ルナ  
 リ今菩薩戒經義疏ニ由ルニ大乘ノ戒ト小乗ノ戒トニ就キ三ノ差ヲ舉  
 ゲテ云ハク一ニハ開遮ノ異ニハ色心ノ異三ニハ輕重ノ異ナリ開遮  
 ノ異トハ大士ハ機ヲ見テ殺スコトヲ得聲聞ハ見ルト雖モ殺スコトヲ  
 許サズ色心ノ異トハ大士ハ心ヲ制シ聲聞ハ色身体ヲ制ス云云故ニ若  
 シ機ヲ見テ却テ殺サ、レハ戒ヲ犯スコト、ナルカ如キ理由アルモノ  
 ナレハ真正ナル社會道德ノ標準ハ菩薩大乘ノ戒ヲ措キテ他ニ求ムヘ  
 カラズ是レ何ソ社會進歩ノ害ヲナサンヤ然レトモ小鳥細鱗ト雖モ無  
 益ニ之レヲ殺シ一草片葉ト雖モ徒ラニ之レヲ折ルニ於テハ等ク殺生  
 ノ中ニ數ヘラルヘキナリ

變ニ注意スルハキハ我邦ニ於テモ近年肉食流行シテ毎年牛馬ヲ屠ルコ  
 ト十萬頭以上ニ及ビ其他雜家ソ殺スコト幾萬ナルヲ知ラズ佛教ヲハ  
 歐米肉食國ニ布教セントスルニ際シテ佛教徒ハ如何ナル所置ヲナス  
 ベキカ彼等カ佛教ニ對シテ肉食論ノ可否ヲ問フトキ佛教ハ如何ニ答  
 フヘキカ是レ必要ナル問題ナリ若シ予カ理想的判斷ニ從ハ、固ヨリ  
 斷然之レヲ排斥スヘク考フルモ社會古來ノ風習ハ決シテ急激ニ矯正  
 シ得ラル、モノユアラズ爾レハ我日本ニ於ケル魚食ノ如キモ到底之  
 レヲ排スルコトヲ得ザルハ今日水産擴張ノ輿論ヲ以テシテモ明ナリ  
 養蠶ノ如キモ我邦第一ノ國產ナラズヤ然レモ佛陀ノ大悲ハ凡テ生物  
 ニ及ビ彼等カ生命ヲ奪ヒテ人類ノ營養トナサズトモ他ニ人間生理的  
 ニ適セル食物アリテ人類ハ肉食の生物ニアラザルモノ、如ク考ヘラ  
 ル、ナリ佛教徒ハカ、ル困難ナル地位ニ立ツモ大乘菩薩戒ノ旨趣ニ  
 基キ一片ノ精神堅固ナル戒律ヲ持ツ上ハ出來得ヘキ丈ケハ慘酷ナル  
 肉食ノ風ヲ止メ肉食ノ理ヲ明ニ研究シテ之レニ代ヘンコトヲ期セザ

ルベカラズ爾レ戰國ノ今日ニ處スルニ於テハ又一概ニ論スベカラザルコトアリ只宗教悲智ノ二門ノ教ヘテハ普ク弘通シテ平和ノ佛界ヲ造リ出スニアレハ今日ニ處スルニハ或ハ國益ノ爲メ公衆ノ爲メナルコトニ於テハ漁業養蠶ノ如キモ全ク排スヘカラザルナリ唯遊獵ノ如キハ之ヲ廢シテ他ニ高尚ナル活潑ナル遊技ニ代ヘンコトヲ希望スル所ナリ

次ニ予ハ禁酒論ヲ爲サント欲ス是レ佛ノ五戒ノ一ニ加ヘテ戒メ玉フ所且ツ贅澤品ナリ酒害ノアルコトハ主トシテ道德上衛生上經濟上ノ三點ニシテ道德上ニ於テモ社交上或ハ脩身上有害タリ國家ニ罪人ヲ出シ貧者ヲ増スモ多クハ此酒ニシテ一身ヲ誤リ身代ヲ破ルモ酒最モ關ス衛生上ニ於テモ其害アルコトハ醫家ノ多ク証スル所ニシテ中ニハ反對說ヲ稱フルモノアレモ固ヨリモルヒ子ノ如キ阿片ノ如キ其衛生ニ害アルモノハ又藥品トモナルモノナレモ日用ノ飲用物ト藥用品トヲ混シテ論スヘカラズ禁酒ニシテ斷行セラル、ナラハ宗教上ノ益

ハ云フヲ俟タズ又社會上ニ於テモ其利スルコト大ナリ我邦ニ於テモ之ヲ一國經濟ノ上ヨリ見ルモ數千萬圓ハ年々酒ノ爲メニ費サレ小ニシテ者フルモ破産或ハ貧民ノ増加ノ如キ又道德上ヨリ見ルモ刑法ノ罪人トナルモノ不徳ノ行爲ヲナスモノ多クハ酒ニ原因シ風俗ヲ亂シ爭論ヲ起スモ酒ノ媒介ニ由ラザルハ殆トナシ予ハ今統計ヲ掲ケ例証ヲ引テ充分論述スル余暇ナク他日戒律論ヲ著サンコトヲ志ス故ニ爰ニハ只禁酒ノ實行スヘキ概要ヲ擧ゲタルノミ爾レモ此問題ハ充分ニ熟考アラシコトヲ希望スルナリ之レ戒律中不飲酒戒ニ於ケル一問題ナリ彼ノ第四期議會提出ノ酒稅政府案ハ予敢テ吏黨ニアラザルモ其正當ヲ認メタリ爾ルニ議員一致ヲ以テ之ヲ否決ス何ソ世ノ亂ル、甚シキヤ當時禁酒家ハ如何ナル運動ヲナセシカ深ク遺憾トスル所ナリ」

又不邪淫戒ニ就キテ論スルモ今日社會ノ問題タル廢娼論ノ如キ考究ヲ要スル者ナリ然ルニ基督教徒先ツ此論ヲ唱ヘタル故カ今日ノ佛者ハ冷淡ニ此問題ヲ視却テ存娼論者サヘアルカ如クニ聞ク何ソ不徳ノ

甚シキヤ固ヨリ唯理論ノミヲ以テ斷シ實際上ニ就キテ考究セサレハ一片ノ空論タルニ過キザルモ廢娼ハ全ク出來得ベキコトナリ仮令ヒ廢娼ノ害アリトスルモ其害ヤ存娼ヨリモ却テ少キヲ見ル公然之ヲ許スニ於テハ人心ノ不徳ヲ養成シ人其不徳タルコトヲ辨ヘサルニ至ル又娼妓固ヨリ好ミテ此賤業ニ從事スルニアラザルベシ若シ爾ルモノアラバ人非人ナリ爾レハ必スヤ身上ノ不幸或ハ貧困ノ餘リカ、ル醜業ヲ營ムモノナレハ佛教徒ハカ、ルモノニ對シテハ憐愍ヲ加ヘ此等ヲ救助スルノ道ヲ講セザルヘカラズ是レ敎家ノ義務ノミナラズ又社會一般ノ義務ナリ斷シテ廢娼スヘキナリ

又敎家慈善ノ事業ニ就キテ一言セント欲ス彼ノ鰥寡孤獨ノ者或ハ不具貧賤ナル者ハ實ニ之ヲ救助セザルベカラズ只注意スヘキハ身体ノ勞働ニ堪フルモ乞食トナリテ怠惰ニ生活スルカ如キモノニ對シテハ如何ニスヘキカナリ慈善ノ弊ハ只救助一方ニ徧スル傾キアリテ社會ハ働キテ生活スヘキモノタルコトヲ忘ル、ニアリ予ハ考フルニ固ヨ

リ不具或ハ孤獨ノ者ノ如キ勞働ニ堪ヘザルモノハ充分之レヲ救助セ又勞働ニ堪フル者ハ或ハ之ヲ聚メテ一ノ正業ヲ敎ヘ又ハ與ヘテ國家ノ噴ヒ潰シツヅケテ生産的人物タラシムルニアリ是レ真正ノ慈善貧民救助ナリ彼ノ立派ナル身体ヲ有シ乍ラ寺院ノ門前ニ立チテ參詣人ノ賽錢ヲ乞ヒ或ハ人家ニ至リテ食物ヲ乞フ者ノ如キハ是レ敎化ノ盡力ノ足ラザル不注意ノ點ナリ此救助ノ道ヲ立テ彼等ヲ憐愍スルモ尙ホ彼等ハ正業ニ就カズ怠惰ニ生活セント欲セハ是レソ全ク國家ノ蝗虫ナレハ社會上ニ於テ別段ニ救助スルノ義務ナキモノナリ今日ノ急務ハ以上ノ正當ナル救助法ヲ講スルニアリ

以上種々佛教道德上ノ議論ヲナシタルガ佛教中ニ於テ真宗ノ如キハ戒律ヲハ宗祖已來斷然持タズ一般ノ道俗ト共ニ世間ノ生活ヲナシツ、易行他力ノ信心一ツヲ以テ淨土往生ノ因トシ更ニ佛道修行トテ制規ノ戒律モナク只信後ノ省愼トテ佛恩報謝トシテ惡ヲ避ケ善ヲ積ムマテナリ是レ真宗ノ行ナリ真俗二諦ヲ以テ宗トシ王法爲本ヲ説ク固

ヨリ完全ノ宗旨ナリ然レモ予ハ其信後ノ行トシテ此戒律ヲ持タンコトヲ希望ス僧侶品行ノ標準トシテ道德實行ノ爲メ戒律ヲ持ツヘキナリ苟クモ僧侶トナリ布教ヲ以テ職トスル以上ハ敎家ノ心得トシテ戒制ヲ守リ嚴護法城ノ實ヲ舉クベシ實ニコレ精神の戒律ト謂ツベシ是レ宗意ニ戻ラザルノミナラズ恰モ開祖ノ斷然肉食妻帶ヲ許シタルカ如キト一般持戒却テ宗意ヲ發揚スルモノナリ

### 第七章 比較佛敎學

佛敎ノ起リテ已來已ニ三千年源ヲ印度ニ發シテ漸々東洋諸國ニ傳播シ爾來年數ノ久キト距離ノ遠キトニヨリ或ハ交通ノ不便鎖國ノ制ヨリシテ佛敎互ニ融通セス又各國ニ於テ如何ナル進歩ヲナシタルカ如何ナル宗派ヲナシ如何ナル敎儀ヲ以テ今日ニ至リシカ明ナラズ印度西倫暹羅ノ南方佛敎ハ小乘ナリト云フ果シテ支那日本ニ傳ハル俱舍有部ノ敎ト同ナリヤ異ナリヤ又日本支那翻譯ノ經文ハ今日印度地方

ニ存スル梵本ノ經文ト等キカ書キ又今日西洋ニ於テ佛敎ト稱スル所ノモノハ佛敎中全ク小乘ニ屬スルノモノナリ又ヅラバツハイハ或ハスエデンボルグナドノ佛敎ト如何ナル關係アリヤ又佛敎カ西藏國ニ入リテハラマ敎トナリ支那ニ於テハ儒敎道教ト關係シ日本ニ於テハ神道ト混シ本地垂迹ノ説起リシナド各國ニ於テ異様ノ發達ヲナシタルハ今日佛徒ノ充分研究ヲ要スル點ナリ同ク支那譯ト雖モ新譯アリ舊譯アリ同本異譯アリ卷數ノ異ルアリ又支那譯ト他ノ西藏譯或ハ西倫譯又ハ現今ノ歐文譯ト其意ヲ異ニスルカ如キ是等ハ皆比較的ニ研究ヲ要スル必要ナル點ナリトス又佛敎ノ起原ニ就キテモ佛敎己前ノ印度ノ哲學宗敎ノ景況婆羅門敎ノ研究特ニ四韋陀ハ原本存シオルコトナレハ此等ノ如キニ就キテノ調べ又印度波斯等ニ於ケル宗敎上ノ關係或ハアレキサンドル大帝カ印度征略ニ於テ佛敎カ小亞細亞埃及地方ニ入リタリトノ説ノ如キ或ハ之ヲ宗敎學上ヨリ或ハ博言學上ヨリ或ハ人類學上ヨリ史學上ヨリ充分ニ比較佛敎學ヲ考究スヘキナ

リ  
若シ此比較佛教學ノ起ラサレハ今日此多技多端ニ分カレタル佛敎ノ  
統合期スヘカラズ外カニ一統宗敎タラントスル佛敎何ソ内ニ此組織  
的一致上ノ佛敎ヲ欠クベケンヤ此等比較佛敎學及ヒ宗敎學哲學史學  
ヲ研究スルニ就キテハ或ハ博物館ヲ設ケ或ハ圖書館ヲ設ケ廣ク東西  
古今ノ圖書ヲ集メ佛像器具ヲ陳列シ或ハ各敎ニ於ケル寺院殿堂ノ建  
築彫刻等ノ美術品等ヲ網羅シテ考究ノ參考ニ供スヘキナリ今日佛家  
ノ事業モ實ニ多忙ナリ爾レモ各專門ニ之カ考究ニ當リ一致ノ運動ヲ  
ナスニ於テハ五億ノ佛敎徒アリ數十萬ノ僧侶アリ敢テ仕遂ゲ得ザル  
程ノ難事トスル所ニアラザルナリ

第八章 散斯克(梵學)

予ハ先キニ歷史上ニ於ケル佛敎ノ探考並ニ比較佛敎學ノ必要ヲ論シ  
タルカ此等緊要ナル考究ニ於テ最モ欠クヘカラザルハ梵學ノ研究ナ

リ梵語ハ是レ佛敎ノ原語ナリ誰レカ此原語ヲ學ブヲ不要ト考フルモ  
ノアラシヤ此神聖ナル梵語ヲ學ブハ佛敎徒ノ責任ナリ梵學ノ必要ハ  
故ラニ論明ヲ要セザルコトナレトモ今一層其急務ナル所以ヲ説明セ  
ント欲ス

第一ニ釋尊ノ傳記佛敎起原ノ歷史ヲ明ニセント思ハ、又印度ヲ中心  
トシテ支那暹羅西藏等ノ佛敎ヲ比較研究シテ正當ナル敎義ヲ得ント  
欲セハ皆梵學研究ノ必要ヲ感スルナリ又支那譯ニナキ原文ノ經論全  
クナシトスヘカラズ傳來セザルモノモアルヘシ又支那譯ノ經論皆賢  
明ナル三藏諸聖ノ翻譯ナレハ粗漏固ヨリナカルヘキモ千無一失ナシ  
トモ云フヘカラズ譯中ニ於テ或ハ直譯或ハ不翻或ハ意譯ノ如キハ唯  
單ニ支那譯ノ經論ノミヲ研究スル者ノ往々誤ル所ニシテ原意ニ由リ  
テ判セザレハ區々ナル說ヲ生シテ一定セザルアリ又支那譯ニ於テモ  
新譯舊譯同本異譯アリテ原本ヨリ正スニ非ズンハ何レカ正ナルヲ知  
ラズ近クハ觀音ニ就キテモ舊譯ニ於テハ觀世音菩薩ト譯シ新譯ニハ

觀自在菩薩ト翻スルカ如キ又無量壽經ニ就キテモ大阿彌陀經稱讚淨土經樂有莊嚴經及ヒ平等覺經ト云フカ如キ其梵意ヨリシテ如何ニ區別セラレ、カヲ考究セザルヘカラズ原意ヲ解セザルトキハ譯字ニ拘泥シテ意ヲ誤ルコト多ク古來往々梵學ノ欠點ヨリシテ大家ト雖モ此弊ニ陥レルコトアリト云フ又淺近ナルコトニモ時ヲ費シテ了解シ得ザルコトアリテ遺憾ナキ能ハズ

又佛教ハ今後歐米ニ傳播シ世界ニ於ケル佛教徒タラント欲セハ之ヲ翻譯上ヨリ見ルモ梵本ノ研究ヲ要ス過去ニ於テハ佛典ハ只支那譯ニナシタルマテニシテ其外ハ殆ト異文ノ國語ニ翻譯ナシ爾ルニ今日之ヲ歐洲文ニ譯セント欲セハ是非原本ニ由ルコト必要ナリ又原本ヲ失ヒテ支那譯ノミ存スルモノ多シ之ヲ又譯スルニ於テモ亦梵學ノ力ヲ借ラザルヘカラズ特ニ原音ヲ以テ存スルモノ經文中至テ多ク阿耨多羅三藐三菩提ノ如キ涅槃阿羅漢般若波羅密南無阿彌陀佛菩薩等ノ如キ又最モ深意アリテ譯シ難キノ語多合ノ意アル語ナレハ佛學者ハ明

其原意ニ照シテ學バザルハカヲズ阿彌陀ヲ譯シテ古來無量壽無量光トスレバ原意ニ由ルトキハ阿ハ無ト翻シ彌陀ハ量ト譯ス唯無量ト云フ意ノ外ナレ而シテ無量壽ノ原語ハアマターユスト云ヒ無量光ノ原語ハアマターブハスナリ如此キ例ハ梵學初步ノ予ト云ヘドモ列舉スルニ困却セザルナリ

佛教モ古來ノ如ク一國一地方ニ限ルノ時代ナラハ從來ノ儘ニ存ストモ差支ヘナキモノトスルモ今日ハ已ニ佛教ハ唯東洋一地方ノ宗教ナラズシテ將ニ五洲ノ一統宗教タラントスルモノ世界ノ佛教タル以上ハ佛教徒亦世界ニ於ケル信徒タルノ覺悟其準備ナクンハアルヘカラス爾レハ只支那譯ノミヲ以テ満足スヘカラザルハ時代ノ然ラシムル所ニシテ佛教ノ基礎ハ原本ノ上ニ置カザルベカラズ少クトモ原意ヲ應用シテ支那譯ノ研究ヲナサ、ル可カラズ特ニ此梵學ノ研究ハ近世歐洲人ニ先セラレ其研究周到ニシテ往々彼等ハ原意ヲ以テ支那譯ノ經論ヲ評シ誤謬アルヲ指示スルニ至ル佛徒カ梵學ノ必要愈々急務ナ

リトス假令ヒ東洋ノ佛徒如何ニ之ヲ保守シ辨護セント欲スルモ彼レハ原意ニ由リテ論スルニ我レ只譯書ニ由リテノミ証セントスルハ到底好結果ヲ得サルコト明ナリ今日ニ傳リシ梵本ハ己ニ歐人ノ手ニ由リテ或ハ編輯セラレ或ハ翻譯セラレタルモノ多シ爾レモ未タ十部内外ナリ故ニ佛教各國ヲ探索シテ原本ヲ求メ佛教徒自ラ翻譯出版シテ歐米ニ布教セズンハアルヘカラズ幸ヒニシテ今日傳ル所ノ原本中法華經無量壽經阿彌陀經ノ如キ釋尊出世ノ本懷タル經典ノ存スルハ最モ喜バシキ所ナレモ尙ホ是等ノ原本モ種々異本アルカ如シ又觀無量壽經ノ如キ其他支那譯ニアル經文ノ原書至テ少キハ又吾人ノ最モ遺憾トスル所ナリ此自由ニ原本ノ研究セラル、ノ時代ニ於テ又佛學上翻譯上布教上ニ於テ最モ必要ナル梵本ノ探究決シテ怠ルヘカラザルナリ

已上ハ主眼タル梵學ノミニ就キテ論シタルカ此外原語探究トシテ又シンハリ語及ヒ西藏語ノ研究ヲ要ス特ニシンハリ語ノ如キハ釋

釋ノ自ラ讀法ニ重ヘル聖語ナリト云ヘハ梵語ノ研究ト共ニ其要ヲ感スルモノナリ

今日ノ急務ハ未タ歐人モ着手セザル支那譯ノ經文ヲバ其原本ヲ求メテ之ニ照シ充分ナル考証ヲ遂ゲ數十ノ専門學者ヲシテ正確ナル翻譯ヲ成就シ歐人カ經文ニ對スル疑點ニ解答ヲナスベキナリ頑固ナル佛學者中ニハ或ハ異論ヲ懷クモノモアルヘシ何トナレハ梵書原本ニ重キヲ置クトキハ勢ヒ支那譯ハ第二流トナリ從前ヨリモ其價ヲ落スノ恐レアレバナリ爾レモ如何ニ固守スルモ歐人カ原本ヲ學ビテ支那譯ヲ評スルニ於テハ勢ヒ支那譯ノ價ヒヲ落スニ至ルヘシ寧ロ我先シテ原本ヲ研究シ支那譯ノ經文ニ照シテ正意ヲ傳ヘザルベカラズ先ニスレハ人ヲ制スノ道理ナリ此等ハ佛教ノ學問上ニ關スルコトニシテ若シ之ヲ信仰上ノコト、混シテ學問ノ妨害ヲナスニ至リテハ實ニ不見識ノ至リト云ハザルベカラズ

英國ノ大儒マクスミューラー氏ノ如キハ深ク梵學ヲ研究シ多ク梵本

ノ經典ヲ出版シ翻譯シ佛學上ニ於テモ其功蹟至大ナリ佛教徒ハ彼ニ勳賞ヲ贈リテ可也然ルニ民尙ホ大乘非佛說ヲ懷カル、ヤニ聞ク此問題ヤ佛教徒ノ最モ膽ヲ嘗メテ探究ヲ凝スヘキモノニシテ此等ノ疑難ヲ明カニ解カズンハ將來歐米佛教ノ傳道ハ期スベカラサルナリ吾人ハ爰ニ至リ益々梵學ノ必要ヲ感スルト同時ニ日本梵學ノ泰斗笠原研壽氏ノ短命ヲ悲シミ南條博士ノ萬歲ヲ祈ルコト切ナリ

### 第九章 佛教國ノ探檢

探檢ノ言ハ今日社會ノ流行語一大風潮物ナルカ此業ヤ豈唯社會ノミノ專有物ナランヤ又以テ今日佛教徒ノ業ニ移シ得ヘキモノナリ敎家ノ探檢ニ二種アリテ一ハ傳道開教ノ爲メニ或ハ北海ニ或ハ南洋ニ其人情風俗言語政治ヲ探知シテ而シテ後布教傳道ノ法ヲ講セザルベカラザルコトナリ今予カ將ニ爰ニ論セントスル所ハ第二佛教國ノ探檢ニシテ是最モ今日ノ急務ナリ佛書ノ原本ヲ得ント欲シ又古今佛教傳

播ノ狀況及ヒ佛教ノ進出ヲ探檢セント欲セハ是非古來ヨリ佛教ノ傳リタル國々ニ向ヒテ探檢ヲ試ミザルベカラズ今日竊々タル彼米國シカ大博覽會ハコロソングス氏米國發見ノ四百年祭紀念ノ爲メニ開カレタルニアアラズヤ然ルニ海外佛教事情及ヒ鈴木氏著ノ亞細亞人等ノ報ニ由レハ米國ノ發見ハ己ニコロンブスニ先ヅ數百年前ニ於テ亞細亞人ノ發見シタリシ所ニシテ特ニ佛教ノ僧侶ナリト云フ是レ固ヨリ深ク探檢スヘキコトナルモコロソングス氏發見以前ニ於テ已ニ佛敎カ米國ニ傳播セシコトハ今日人類學ノ發達ニ由リ古代ノ遺物佛像等ノ發見セラル、ニ由リテ最早疑フヘカラサル事實タルカ如シ古代ノ佛徒何ソ夫レ活潑ナル今日ノ僧侶ハ交通自由ナル上ニ且ツ歐米ニ於テ求テ止マザル佛教ノ弘通ニ盡力セズ僅カニ宗派内ノ争ヒニ汲々トシテ或ハ何宗ノ紛議或ハ堂班位階ノ競争瑣細ナルコトニ齷齪シ虚儀的野蠻的無精神無氣力の事業ニ空シク日月ヲ費ス嗚呼末代ナル哉五濁惡時惡世界ナル哉彼等舊佛教ノ腐敗セル腦髓ヲ擊破シ真正ナル佛陀

ノ光明ヲ發揮スル新佛徒生セズンバ此教界ノ亂世ヲ如何ニセン新佛徒ノ世界ニ對スルヤ宇宙ハ掌小的也探檢敢テ難事トナサス佛陀カ一度天竺ニ法輪ヲ轉シ玉ヒシ以來諸ノ賢聖或ハ雪山ヲ越エテ西藏ニ入リ或ハゴビノ大砂原ヲ渡リテ支那ニ入ル其困難實ニ謂フヘカラス玄奘三藏法顯三藏等ノ入竺數十年ノ星霜ヲ費シ高山大川物ノ數トモセズ遂ニ大業ヲ成就セシカ如キ又鑑眞和尚カ十二年ノ日月ヲハ波浪ノ間ニ送り遂ニ日本ニ渡リテ戒律ヲ傳ヘ玉ヒシカ如キ東洋諸國ノ文明ハ多ク佛徒ノ生ミ出セシ所ナリシニアラズヤ社會ノ大勢ニ先ンセハ之ヲ制シ後ルレハ之ニ制セラル東西兩洋黃白人種互ニ相對面セル十九世紀ニ於テハ佛教徒已ニ後レヲトレリ基督教カ時ナラヌ花ヲ咲カセタルモ全ク數百年來東洋佛教徒カ安逸眠夢セル影響ナリ第二十世紀ニ於ケル東西兩洋ノ勝敗ハ十九世紀ニ於ケル如キ物質的ニアラズシテ佛耶兩大教ノ精神的戰爭ナリトス此等活潑ナル精神ヲ發揮スルニ於テハ探檢ノ事業最モ必要ナリ何トナレハ先輩高僧ノ足蹟ヲ訪フ

青蓮華ヲ開カテ大ニザル麗典ヲ撰究セ加高ナリトバ徒來佛敎國互ニ隔離シテ久シク團結セザリレモノモ彼此相リ通シ佛陀五億ノ教徒ヲレテ種ヲ一九トナシ古代高僧ノ大膽勇壯ノ精氣ヲ再起シ萬國傳道ニ怠ラズ佛教徒組織の運動ヲナスニ於テハ佛教ヲシテ世界ニ於ケル一統宗教タラシメメント敢テ難事トスル所ニアラザルナリ今佛教國探檢ニ於テ如何ナル國カ急務ナル固ヨリ東洋諸國皆佛教ノ傳播セル所ナレハ各地皆必要ナリ然レモ前後アリ順序アリ予カ最モ急務ト感スルモノハ西藏國ナリトス此外ニボールカシユミル支那印度ノ内地暹羅緬甸等ノ諸國何レモ佛教徒ノ探檢ヲ要スル最モ價アル所ナリ佛教國ノ探檢豈佛徒ノ大ニ着眼スベキ者ニ非スヤ

西藏國探檢ノ必要

印度雪山ノ背後ゴビ大沙漠ノ南方ニ當リ海面ヲ抜クコト一萬尺以上ノ高原ニ於テ幅員ハ我日本ニ四倍余人口ハ五六百万乃至千萬ナル國アリ是即チ西藏國ナリトス

往古以來他國ト通セス他人種ト交ラス國体ハ大ニ他邦ト異ニシテ地理書ノ記スル所ニヨレハ法王アリ遠賴喇嘛ト號シ域内ニ君臨ス之ヲ彌陀ノ示現セル活佛ナリトマテ人民ノ尊崇スル甚タ嚴ナリ此法王ニ亞ギテ尙ホ數名ノ貴重ナル高僧アリ其外ニ出ヅル時ハ市井ノ老若皆地ニ伏シテ敬禮ヲ施ス若シ之ヲ拜セサル者アレハ嚴刑ニ處セラル又女僧頗ル夥シ且ツ此國ハ亞細亞洲中ノ最モ佛教盛ニ僧徒多キ地ナリ故ニ蒙古ノ人民此ヲ靈地トシテ隔遠ノ地方ヨリ來リ巡拜スル者常ニ多シ國內ノ人口大半僧侶ニシテ寺院堂宇甚タ多ク其大ナルニ至リテハ三千或ハ四千ノ僧侶群居スル者有リ其首府拉薩<sup>ラサ</sup>ハ人家石ヲ以テ造リ市街道路甚タ清潔ニシテ又壯麗ナル寺院堂塔及ヒ廣大ナル彌陀堂アリテ其中無數ノ佛像金銀寶玉ヲ充滿ス法王ノ宮殿ノ如キ即チ巨大ノ一寺院ニシテ結構壯觀華美ヲ極メ無數ノ佛堂高塔林立シテ内外ニ羅列ス皆金銀珠玉ヲ鑲ハマメ爛々トシテ人目ヲ眩惑ス大凡世界中此ノ如ク財寶ヲ寺院僧侶ニ擲チ冥福ヲ祈ルモノ多キヲ見ズ各部ノ都邑皆

高僧ノ宮殿及ヒ寺院堂宇アリ或ハ山林湖水ノ中ニ堂宇アリテ數多ノ女僧ヲ住セシム又國內都邑ニ住スル人民ハ禮讓ニ厚ク文學ヲ研究スル者多ク星學曆法ノ如キモ此國自ラ發明アリ殊ニ佛教ヲ講習スルノ生徒最モ夥シト云フ以上ノ記ニ依ルニ我邦佛教徒ノ此國ヲ探檢スル必要照々トシテ明カナリ誰レカ探檢ハ軍事上殖民上ニノミ要アリト云フ歟

更ニ進ンテ其要ヲ説カンニ佛教ノ印度ニ起リ隆盛ヲ極メタルモノカ一朝婆羅門教ノ逐フ所トナリ回教徒ノ進入トナルヤ南ハ錫蘭嶋ニ遁レ東ハ緬甸暹羅ニ入り北ハ全ク此西藏國ニ隱レタルモノナリ而シテ錫蘭暹羅ノ佛教ハ小乘教ニノ寧ロ日本佛教ニ關スル所少キニモ拘ハラス已ニ我日本佛教僧侶ノ研究シ探檢セル所トナリ錫蘭嶋誌暹羅佛教事情ノ如キ著アリ又現ニ數名ノ留學生ノ在ルアリ然ルニ北方西藏國佛教ニ至リテハ其教大乘佛教ナルニモ拘ハラズ之ニ向テ未タ探檢ヲ遂ゲズ留學生ノ派遣ナキハ是レ其地ニ入ル困難ナルニモセヨ實ニ

日本佛教徒ノ不面目ナラスヤ  
 又今日ハ宇内宗教ノ形勢ガ新佛徒ノ勃興ヲ促ガシ將來ニ於ケル宇内  
 一統宗教ハ佛教タラザルベカラザルノ氣運ニ際シ之ニ對シテ一大準  
 備ヲナスヘキノ時代ナルコト屢々論セシカ如シ其準備中最モ要用ナ  
 ルハ或ハ佛陀眞聖ナル經典ノ梵本ヲ探リ或ハ釋尊ノ正傳ヲ求メ其眞  
 說ヲ發揚スルニアリ然レハ印度ヨリシテ直傳セル西藏佛教ノ研究原  
 本ノ探索其必要ナル論ヲ俟タズ  
 又共ニ是レ佛陀ノ教ヲ奉スル佛徒コテアリ乍ラ互ニ交通聯絡セサル  
 ハ不都合千萬ナルコトナラズヤ然レハ佛教國佛徒ノ團結上ニ於テ  
 モ西藏國ノ探檢ハ忽ニスベカラサルナリ日本佛徒カ之レヲ探究ス  
 ルノ便利ハ人種ニ於テモ大差ナク共ニ大乘教徒タルコト於テモ又今日  
 日本ノ佛徒カ此隱者民此閉鎖國ヲ開發シテ各國ニ紹介シ且ツ其國將  
 來ノ國是ヲ策ルモ亦一大責任ナルベシ  
 特ニ今日一日モ西藏國探檢ノ猶豫スベカラザルハ北ハ魯國アリテア

ルタイ崑崙山ヲ越ヘントシ西ヨリハ雪山ヲ越エテ英國之ニ迫ラント  
 シ南ヨリハカンボヂアノ河ニ沿フテ佛國之ニ入ラントシ而シテ支那  
 ハ東ヨリシテ楊子江ヲ溯リ彼等ヲ退ケントシ今日東方問題ハ愈々切  
 迫シ來リ中央亞細亞バミル高原將ニ一大戰場タラントス此時ニ際シ  
 テ其燒點ニ當ル西藏國ノ運命果シテ如何予ハ爰ニ東方問題ニ際シテ  
 ル、ニ非スト雖モ其危急ノ時期ニ際シテハ此古來數千年隆盛ヲ極メ  
 タル佛教モ如何ニ成行クヤ其時ニ及テ此國ノ佛教ヲ探檢セントスル  
 モ之レヲ研究セントスルモ原本ヲ得ントスルモ正傳ヲ探ラントスル  
 モ其國ノ社會國体人情風俗言語地理ヲ調ベントスルモ佛徒ノ團結ヲ  
 謀ラントスルモ已ニ止ンナンノミ  
 特ニ又西洋各國ニ於ケル佛教進入ノ影響及東洋學研究ノ結果ハ續々  
 西洋人中ニ西藏國探檢者ヲ見ルニ至レリ海外佛教事情ノ報ニ依ルモ  
 獨乙國人ニシテ佛教研究ノ爲メ入藏セル者五十四名アリト云フニ非  
 スヤ西洋人ニシテ尙且ツ然リ東洋佛教徒タル者如何ンゾ進ンデ此探

檢ヲ遂ケサルヲ得ンヤ實ニ一尅モ忽ニスベカラサルモノナリ  
此國ノ探檢ハ此ノ如ク佛教上ニ利益アルノミナラズ又學問上社會政  
治上ニ於テモ其益スルコト大ナリ世界中今日最闊ナル國ハ恐クハ此  
國ナラン爾レハ地理學上ノ有益ハ云フニ及バス其國ノ人種言語習慣  
風俗政体等ノ調査皆人類學歷史學社會學ノ好材料トナリ世間一般ノ  
業トシテ考フルモ有益ナルコト論ヲ俟タズ

### 第十章 敎國ノ聯合

釋尊一代ノ說法八萬四千ノ法門ハ一切衆生ノ根機ニカナヒ萬機ヲ攝  
スルノ敎ナリ其信徒ノ多キコト今日世界諸宗教中其比ヲ見ズ今歐洲  
諸學者ノ宗徒信徒ノ統計表ヲ示セバ左ノ如シ  
(一) 十大宗教論ノ著者クラーク氏調査  
羅馬加特力宗徒 二億〇五百萬人  
波羅士特宗徒 一億〇二百五十萬人

猶太教徒 七百五十萬人  
希臘教徒 八千二百萬人  
婆羅門教徒 一億八千萬人  
エシース教徒 七千五百萬人  
バガン教徒 九千五百萬人  
回々教徒 一億〇五百萬人  
佛教徒 三億八千五百萬人  
(二) 佛國地理學者フランシス氏最近調査  
佛教徒 五億萬人  
基督教徒 四億二千萬人  
內新教 一億二千萬人  
舊教 二億二千萬人  
希臘教 八千萬人  
偶像教徒 二億三千五百萬人

而シテダビツヅ氏ノ佛教信徒統計表ハ左ノ如シ

合計十二億五千三十五萬人	錫蘭	三百萬人
南方佛教徒	英領緬甸	二百四十四萬七千八百三十一人
	緬甸	一千二百萬人
	暹羅	一千二百萬人
	安南	四十八萬五千人
北方佛教徒	外	四億七千萬人
	蘭領等佛徒	五萬人
	英領佛徒	五十萬人
	琉球諸島	百萬人
	朝鮮	八百萬人

(三) 又ダビツヅ氏ノ調査

婆羅門教徒	一億四千萬人
回々教徒	一億二千萬人
猶太教徒	八千萬人
ベルシア教徒	十五萬人
印度シクフス教徒	百二十萬人
猶太教徒	七百萬
希臘舊教徒	七千五百萬人
羅馬舊教徒	一億五千二百萬人
基督新教徒	一億萬人
印度教徒	一億六千萬人
回教徒	一億五千五百萬人
佛教徒	五億萬人
無宗教徒	一億萬人

ブフタン及シクヒム	百萬八
カシユミル	二十萬人
西藏	六百萬人
蒙古	二百萬人
滿洲	三百萬人
日本	三千二百七十九萬四千八百九十七人
ニポール	五十萬人
支那本部	四億一千四百六十八萬六千九百九十四人

合計五億萬人

以上ノ統計表ヲ見ルニ全ク誤リナシト云フヘカラズ爾レモ比較上此ノ如ク最大多數ノ信徒ヲ有スル佛教ハ實ニ釋尊ノ入滅以來四方ニ散シ八方ニ分カレ爾來之ヲ統合一致シテ佛教ノ聯合ヲ謀ルモノナク佛徒間ノ交通殆ト絶エ北方ノ教徒ハ南方ノ佛徒ヲ排シ彼只小乘ノミ何ソ大乘ノ教ニ及バンヤト彼ノ事情ヲ明ニセズシテ之ヲ貶シ又南方ノ

教徒ハ大乘非佛說ヲ稱ヘテ北方佛教ヲ排ス南北隔絶一致セズシテ更ニ聯合ヲ見サリキ爾レモ今日ハ教理上ヨリ論スルモ布教上ヨリ見ルモ廣ク南北佛教徒ノ聯合ヲ計リ日本支那朝鮮緬甸西藏印度錫蘭及ヒ其他歐米ノ各國ニ存スル佛教徒悉ク一致聯合シテ組織的秩序的運動ヲナササルヘカラズ互ニ氣脈ヲ通シテ唯一釋尊ノ功德ヲ東ヨリ西ヨリ南ヨリ北ヨリ一致共同シテ宣揚セスンハアルヘカラズ嘗テオルコツト氏渡來シテ印度七宗管長ノ一致ヲ以テ日本十二宗ノ高僧トノ間ニ南北教徒ノ聯合ヲ謀リ日本至ル所ニ於テ其旨義ヲ演說セラレタリ當時日本各宗ノ佛徒一致シテ彼ヲ歡迎シ贊成セリ然ルニ彼ノ歸國スルヤ其熱ハ冷却シテ未タ其實ノ擧ラザルハ何ゾヤ是レ未タ佛教徒カ彼此ノ情ニ通セズ如此佛教全体ニ關スル問題ヲ不問ニ附シ空シク日月ヲ消シテ未タ好機得ザル爲メナリ唯各宗管長會議ノ如キハ其影響トシテ顯レタルモノナル歟爾ラハ如何ニシテ佛教徒各國團結聯合ノ實ヲ擧グヘキカ予ハ其法策トシテ且ツ佛徒總體ノ事業ニ

就キテ後數章ニ論セントス

### 第十一章 佛蹟回復

歐洲ノ中世史ヲ讀ムモノ第十二十三ノ兩世紀殆ト二百年間ノ記事ハ如何ナルコトナルカ是レソ有名ナル十字軍ノ記ヲ以テ滿タサレタル時代ニシテ耶蘇基督ノ聖地小亞細亞シリヤハ回教徒ノ手中ニアリテ屢々基督教ノ巡禮者ヲ逆待セリ當時歐羅巴全洲ハ基督教甚盛ノ時代ナレハ人民大ニ激昂シ遂ニ歐洲各國同盟シテ此大戦争ヲ生セシ也是全ク救世主ノ墳墓ヲ回復センカ爲メナリ而シテ又今日佛教ノ靈地ヲ見ヨ彼レト全ク同感ノ情ナキカ予ハ反省會雜誌カ印度留學ノ諸兄ニ望ムナル題ニテ論シタル一節ヲ舉ケ以テ印度ノ亡狀ヲ述ベントス

千歲名教地 變爲貨殖林 南商交北賈 東語又西音  
 俯仰無窮感 江山萬古心 土人何解事 連榻鬻清陰

此ハ是レ我カ先輩菅桐南氏カ印度錫蘭島ニ於テ口吟セラレシ詩ナリ

我々ハ印度留學ノ諸兄ニ望ム所アラントスルノ前ニ當リテ聊カ印度現時ノ狀況ヲ畫キテ以テ讀者ノ注意ヲ乞ハント欲スルナリ夫レ錫蘭島今日ノ有様ハ決シテ往古ノ楞伽山ニ非サルナリ印度内地現時ノ風俗ハ決シテ古代文明ノ痕跡ヲ留メザルナリ滔々タル恒河ノ水流レテ盡キザルモ嶮々タル雪山ノ雪尙ホ千秋ノ色ヲ存スルモ憐ムヘシ印度三億ノ生靈ハ早ク先ツ其精神ヲ失ヒ今ハ大國附庸ノ小民トシテ僅ニ阿片醉餘ノ生活ヲ保スルノミ萬樹ノ椰子翠リヲ重ヌルモ真正ニ其美味ヲ味フモノハ土人ニアラズ千畝ノ茶園國中ニ横ハルモ只是泰西人ノ需用ニ供フルノミ寶石ノ山香木ノ林今ハ外人ノ爲ニ荒ラサレテ其痕ヲ止メス精舍ノ趾遊化ノ地全ク異教ノ手ニ落チテ遂ニ順禮ノ人ナキニ至ル爾ルニ此ノ如キ可憐ノ境遇ニ陥リテ而シテ眞ニ之ヲ悲ムモノハ印度ノ土人ニ非スシテ却テ我日本ノ佛教者ニアルナリ印度カ幸ニ佛教ヲ保存シ其信仰ヲ繼續セルニ於テハ我大乘教者ハ多分ノ利益ヲ被ルコトナシトスルモ印度カ全ク其信仰ヲ破ラレ宗教ノ形ヲ存セ

サルニ於テハ我大乘敎ノ利益ヲ被ルコト少ナカラズ實ニ印度ハ最初佛敎ノ本土トシテ東西洋學者ノ尊敬スル所ナリ古代文學ノ奥府トシテ内外敎徒ノ重ンズル所ナリ而シテ零落今日ニ至ル佛敎全体ノ不面目何事カ之ニ過キン今我々獨立國民ノ思想ヨリシテ云ハ、能フヘクンハ印度ヲシテ獨立セシムル策ヲモ講セン佛敎ノ靈跡ヲ買戻スコトヲモ爲サン假令釋迦牟尼佛ノ墓地ダケナリトモ之ヲ佛敎者ノ所有ト爲シタキハ萬々ナリト雖云云ト  
何ソ夫レ痛快ノ言ナルヤ敎主釋尊ノ降誕シ玉ヘル伽毘羅耶城何處ニカアル鹿苑初轉法輪ノ地靈鷲山如何ニ舊景ヲ存スルカ釋尊入滅ノ地墳墓ノ狀今果シテ如何世界最多數ノ敎徒アル佛敎ニシテ其靈蹟ハ婆羅門敎徒ノ守護スル所トナリ佛徒アリテ朝夕之レヲ敬禮スルナシ英國屬領ノ下ニアリテ佛徒ノ靈場ヲ空フス佛徒ノ深ク耻ツヘキコトナラズヤ錫蘭ノ護法居士ダンマパーラ氏此靈場ニ詣シ深ク之ヲ歎キ遂ニ佛蹟回復ノ議ヲ以テ廣ク各國ノ佛徒ニ訴ヘタリ是レ佛徒全体ノ問

題ナリ是レ各々孤々分立スル佛徒カ團結一致ノ實ヲ舉ルニ於テ好機ヲ與フルモノナリ吾人ハ敢テ基督敎徒ノ如ク十字軍ノ如キ戰爭ヲナシ以テ佛蹟ヲ回復セント謀ルモノニアラズ今日釋尊ノ墳墓ハ嘗テ破壊シタリシヲ英政府ノ修營セシモノニシテ其費額ヲ以テ佛徒ニ讓リ渡サンコトヲ約セリト云ヘハ決シテ成就シ難キ業ニアラズ只要スル所ハ佛敎徒ニ一致運動スベキニアリ爾ルニ今日我日本内ニ於テモ未タ佛徒ノ輿論トナラズ又銳意之ヲ助ケルノ有力家アルヲ聞カス空シク舊佛徒名利ノ爲メニ腐敗セル舊思想ノ爲メニ此好機會ヲシテ終ヘザラシメントス豈悲ム可キノ至ナラスヤ新佛徒第一着ノ業トノ先ツ佛蹟回復ノ輿論ヲ喚起シ當ニ日本ノミナラズ日本佛徒將來ノ好友タル支那朝鮮ニ於ケル佛敎徒ヲ起シ共ニ此事業ニ加勢セシムベシ是又聯合ノ實ヲ舉ルモノナリ爾レハ此大陸ノ佛敎徒遊説ノ爲メ又探檢ノ爲メ彼等ノ頑眠ヲ破ランカ爲メ日本佛徒ヲ派遣スベキナリ

第十二章 總會議所

予ハ五億佛教徒全体ノ中心トシテ聯合策ノ一トシテ又將來佛徒ノ興學布教ニ於ケル組織一致ノ運動ヲ謀ランカ爲メニ佛教徒總會議所ノ必要ヲ論セント欲ス

今日ノ佛教ハ數十國數十宗數百派ニ分離シテ佛教徒總体ヨリ成ル中心点ナシ是レ團結ノ成就セズ聯合ノ鞏固ナラザル所以ナリ現時我日本ニ於テ管長會議ナルモノアリテ各宗ノ一致聯合ヲ計リツ、アリ是レ最モ吾人ノ贊成スル所ナリ然レモ未タ不完全無勢力ノモノニシテ其會議ニ於テ如何ナル事カ決セラレシカ多クハ退キテ守ル保守的宗制的ノ議會ニシテ進歩的宣教的ノ會議ニ非ス況ンヤ是レ一小部ノ會議ニ止リ未タ日本佛徒ヲ代表スル勢力アルモノニ非ルニ於テヤ又我邦ニハ佛教徒ノ團結少キニアラズ禁酒進徳ヲ以テ集レル反省會アリ海外傳道ヲ以テ目的トスル海外宣教會アリ爾ルニ古來ノ弊習ニ制セラレテ未タ其目的ヲ達スルコトヲ得ズ二三ノ新聞雜誌ナキニ非ルモ未タ日本佛徒ノ一致スラ謀ルコトヲ得サルナリ然レモ此等ハ將來

ニ於ケル佛徒大聯合ノ基礎ニシテ益々其發達ヲ期シ進歩ヲ謀ラサルヘカラズ而シテ總會議所トハ其各國ニ於ケル佛教徒ノ團結ヲシテ一統ノ下ニ組織スルニアリ印度佛陀伽耶ノ靈蹟ヲ回復シテ宜シク其地ニ於テ全世界佛教徒ノ總會議所タリ總參拜場タルモノヲ設クヘシ而シテ此總會議所ニ於テハ佛徒各國ノ各宗各派各團體ヨリ委員ヲ撰拔シテ會議所ニ住セシメ或ハ大會ヲ開キ或ハ常議員會ヲ開キテ佛教徒總体ニ關スル或ハ興學或ハ布教其他百般ノ事業ニ就キ議決シテ佛教徒運動ノ方針ヲ一致セシムヘシ是レ固ヨリ一國一宗一派ニ徧セズ總テ釋尊ヲ以テ中心トシ一致シ佛陀ノ靈場タルヲ以テ爰ニ集マリ世界分立ノ佛徒ヲシテ一統セシムヘキナリ是レ總會議所ノ性質ナリ小細ノコトハ固ヨリニ論スルノ要ナシ

### 第十三章 巡禮

宗教上ニ於テ教祖ノ遺徳ヲ追慕シ其靈場ヲ巡拜スルコトアリ之ヲ巡

禮ト稱ス此巡禮ヤ殆ント各教ニアリ基督教徒ノシリニアニ巡禮シ回教徒ノメツカニ參詣スルカ如キ皆是ナリ佛教徒亦爾リ我日本ニ於テモ從來教徒ノ各靈場ニ詣スル者多ク所謂ル三十三番ノ札所或ハ西國巡禮ノ如キ四國回リノ如キ御舊蹟參リ又ハ本山參詣善光寺參リ伊勢參宮等ノ如キ皆或ハ高僧ノ遺徳ヲ想ヒ或ハ古來ノ靈場ヲ拜セン爲メニ此巡拜ヲナスモノナリ予嘗テ夏期旅行ニ於テ真宗ノ開山親鸞聖人ノ舊蹟中特ニ真宗開闢ノ地タル常州稻田ノ草庵ニ詣シ板敷山ヲ越エ七百年前宗祖カ此偏地ニ住サレ山谷ヲ越エ今日此隆盛ナル真宗ヲ開キ玉ヒシコトヲ追想シテ感涙ニ咽ビタルコトアリ教徒カ宗祖知識ニ對スル感情ハ實ニ一種云フヘカラザル感動的ノモノナリ予ハ當時ノ記ニ於テ實ニ此等ノ村落ヲ訪ヒ山野ヲ越ユレハ眞ニ七百年前ヲ現出セシムル思ヒアリ今日日本數百萬ノ信徒ヲ有シ遠ク海外ニマテ弘通セントスル我淨土真宗ノ濫觴ヲ求メハ實ニ此一少村一嶮山ノ間ヨリ出テタリト思ヘハ感想甚シク懷舊ノ情禁シ難シト又予ハ嘗テ叡山ニ上

リテ傳教大師ノ高德ヲ慕ヒ又甲州身延山ニ上リテ日蓮上人ノ遺徳ヲ讚嘆シタルコトアリ皆是レ予カ實地巡拜シタル實歴ナリ是レ日本國內ノコトナリ若シ廣ク佛教ノ靈蹟ヲ踏ミ天竺ニ入りテハ釋尊ノ尊蹟ヲ拜シ或ハカピラバツツノ舊趾ヲ尋子或ハ佛陀伽耶ベナレスノ靈地ヲ訪ヒ或ハ靈鷲山ニ詣テ、往昔ノ化導ヲ思ヒ其他支那ニ出テ、ハ天台山或ハ五臺山ノ靈巒ヲ訪ヒ三藏入竺ノ難路ヲ過クル時ハ幾許ノ感想ソヤ必スヤ又言ハン實ニ是等ノ佛蹟ヲ訪ヒ靈巒ヲ越ユレハ眞ニ三千年前ヲ現出セシムル想ヒアリ今日幾億ノ信徒ヲ有シ將ニ五大洲ニ普及セントスル我佛教ノ濫觴ヲ求メハ實ニ此外國屬領ノ憐レナル國中此嶮山ノ間ヨリ出タリト思ハ、感想ハ一層甚シク懷舊ノ情禁シ難シト此巡禮ニヨリ教徒ハ益々從來ノ信仰ヲ堅フシ教主高僧ノ恩徳ヲ知リ護法ノ精神ヲ喚起スベキナリ是レ又佛教徒彼此ノ情ニ通シ益々佛徒ノ團結聯合ノ基礎ヲ作ルモノナリ以上ハ唯宗教上ヨリノ功益ヲ論シタルモノナルカ獨リ之ニ止マラズシテ又社會上ニ於テモ其影響

大ニシテ第一見聞ヲ廣クシ人情風俗ヨリ其他社會百般ノコトニ於テ  
 國家ヲ益スルコト少カラズ古來日本内ノ巡禮ニ於テモ農工商等ノ上  
 ニ及ボセル功益甚タ大ナリシナリ巡禮ノ要知ルベキナリ  
 蓋シ一日ノ散歩ハ我家ノ庭園ニナスベシ一週一ヶ月毎ノ巡遊ハ其市  
 其町村ニ於ケル神社佛閣公園ニ杖ヲ曳クベシ一年或ハ二三年毎ノ巡  
 拜ハ或ハ京坂奈良等ノ如キ一國內ニ於ケルノ靈場ニ詣フスベシ而シ  
 テ人世一生塵埃ノ生活中ヨリ出テ、一生一度ノ巡禮場ハ宜シク印度  
 佛蹟ノ靈地ト定ムベシ實ニ印度ハ世界十四億萬ノ人民カ生涯ニ一度  
 是非巡遊スヘキ世界ノ一大公園ナリ今日此交通自由ナル時代ニ於テ  
 ハ費用ト云ヘテ多額ヲ要スルニアラズ少ク資産アル者ハ容易ニ成シ  
 得ヘキナリ其巡拜ノ順序案内記ノ如キハ充分取調ノ上編輯スヘキ急  
 務ナル事業ナリ深ク注意ヲ要セザルベカラズ

### 第十四章 海外宣教

今日京都ニ於テ海外宣教會ナルモノアリ之カ起原ヲ顧ミルニ明治十  
 九年ノ頃佛門極衰四面只耶教ノ聲ノミヲ聞ク時ニ當リテ普通校ノ教  
 役員中ニ於テ外國新聞ノ報ヲ見テ東洋ニ於テハ如此マテモ衰微セル  
 佛教カ今ヤ歐米ニ信徒ヲ有スルニ至リシヲ知リテ思ヒ掛ケナク喜ビ  
 シコトアリ是レ實ニ頼モシキ新現象ナリトシテ遂ニ米國神智學會へ  
 向ケテ書簡ヲ發セリ爾ルニ間モナクウヰリアムキユーヂヤツヂ氏ヨ  
 リノ返信ニ接シ歐米ニ於テ佛教ノ傳播セルハ事實ニシテ後來日本佛  
 教徒ト同盟シテ布教擴張センコトヲ報セリ是レ佛教徒海外通信ノ最  
 初ニシテ爾來通信意リナク反省會雜誌ニ其模様ヲ掲載シ來レリ其後  
 此事業漸々ト發達シ來リテ遂ニ今日ノ海外宣教會アルヲ見ルニ至レ  
 リ已ニ英國ニモ其支部ヲ設ケ又亞細亞ノ寶珠ナル英文雜誌及海外佛  
 教事情ノ發刊セラル、ニ至ル漸次其擴張ニ盡力セリ爾ルニ此宣教カ  
 未タ充分ノ力ヲ伸ルコト能ハザルハ抑如何ナル所以ナルカ蓋シ未タ  
 此會ヲ知ラザルモノ多ク又此會アルヲ知ルモ未タ其目的ヲ知ラズ或

ハ其目的ヲ知ルモ古來ノ宗派隔絶的舊習ニ制セラレテ佛徒一般ノ運動ノ精神ニ乏シキニ由ルナラン爾ラハ今日佛教徒カ目下ノ急務ハ宣教會ノ如キ事業ヲ最モ贊助シテ其ノ擴張ヲ計ルニアリ而シテ此ノ如キ事業ハ佛徒全体ノ一大事業ナレハ全世界ノ佛徒一致協同セサルヘカラス彼所ニ一會此所ニモ一會ト云フ如ク幾多ノ小會ヲ設ケ微々トシテ一モ其實舉ラス只名利私欲ノ爲ニ逐ハル、コト遺憾ノ至リナリ若シ一大勢力アル會ヲ組織シ大團結ヲナスアラハ其進歩期シテ俟ツヘキナリ

今日僅カニ支那朝鮮暹羅斯德ノ二三ヶ所ニ於テ在外日本人及ヒ其地方人ノ爲メニ佛教ノ布教アリト雖モ未タ布哇ノ如キ桑港ノ如キ其他南洋各島ノ如キ在外日本人ヲ數多アルニモ拘ハラス其布教行キ届カズ特ニ山口廣島縣民ノ如キハ殆ト眞宗ノ信徒ヲ以テ成ル而シテ布哇ニ出稼スル者ニハ此二縣民最數多シ爾ルニ彼等出稼人ニ對シテ布教ヲ怠ル如キハ何ソヤ如何ニ財政困難トハ云ヘ是等ノ布教ニ於テハ豈莫

大ノ費用ヲ要センヤ之ヲ爲サズシテ他ニ如何ナル急務カアル彼等ハ遠ク母國ヲ去リテ外國ニ出稼スル者古郷ヲ思ヒ父母ヲ想ヒ國ヲ思フノ情切ナルベク宗教ノ心亦最モ切ナル境遇ナリ此時ニ際シテ能ク彼等ノ心ヲ慰ムルモノハ宗教者其人ノ任ナラズヤ此ノ如キ海外ニ留マラル本邦人ノ布教ハ是レ海外ニ於ケル布教傳道ノ初步ニシテ且ツ最モ便利ナルモノナリ三十人五十人ノ在留ノ地ニモ布教使ヲ遣スヘシ爾ルニ數千數萬ノ邦人カ在留スル地ニモ猶ホ未タ十分ニ布教届カズ故ニ在外ノ日本人ハ或ハ基督教ノ信徒トナリテ歸ル者アルニ至ラン又在日本ノ外人ニ對シテ或ハ都市ニ於テ或ハ居留地ニ於テ彼外國人ヲ目的トシテ布教傳道スヘキ道ヲモ講セザルヘカラザルニ日本人ノ外國ニ行キテ耶蘇教徒トナル者多キモ外人ノ日本ニ來リテハ誰アリテ彼等ヲ佛教ニ誘導スル者ナク稀レニ彼等ノ求ニヨリテ佛法ヲ聞カシムルコトノ有ルノミ豈ニ日本佛徒ノ不注意ナラズヤ遠キハ近キヨリス外國ノ宣教固ヨリ急務ナリト雖モ遠キ海外ノミニ走リテ却リテ近

キヲ忘ル豈遺憾ナラズヤ

### 第十五章 佛教學校

海外宣教實ニ必要ナリ然レモ徒ラニ必要ヲ論スルノミニテハ何ノ詮  
 カアラン且此事業ヤ獨リ日本佛教徒ノ專有ニアラズ各國佛教徒ノ團  
 結ヨリ成ラザルヘカラズ此等ノ必要ヨリシテ佛教學校ノ必要アリ  
 予カ爰ニ論セントスル佛教學校ノ性質ハ佛教各宗各派ニ於テ專門ニ  
 宗乘ヲ學ブノ意ニアラズ宗乘ハ宜シク各宗派ニ於ケル大學林大學寮  
 ニ於テ考究スベシ今予ノ云フ學校ハ海外宣教ノ第一着トシテ又宗乘  
 ヲ學ブノ入門トシテ普通佛教ニ關スルモノヲ教ヘントスルニアリ  
 先キニ屢々論セシ如ク歐米各國ヨリ我佛教徒ニ對シテ高僧ノ渡來教  
 師ノ派遣ヲ渴望スルコト大旱ノ雲霓モ管ナラズ是レ彼等ノ自發的熱  
 望ニシテ決シテ基督教カ或邦其他各國ニ押賣的ノ布教ヲナスト同視  
 スベカラズ基督教ハ屢々他國ヲ征畧スル手段トシテ用ヒラレ東洋ニ

南洋ニ亞米利加ニ亞弗利加ニ國ヲ亡サレタルモノ其例實ニ少カラス  
 爾ルニ佛教ハ此ノ如キ危險ナキノミナラズ各國ニ於ケル佛教ハ皆其  
 獨立ヲ助ケタリシコト過去ノ經歷ニ就キテ明ナリ然レハ佛教ノ布教  
 傳導ハ今後モ各國獨立ノ寺院教會ヲ設ケ只佛教徒相互ノ關係上ニ於  
 テ佛教總体ノ上ニ於テ一致聯合ノ運動ヲナスベシ故ニ海外ノ傳教ニ  
 於テモ成ルヘク各國自國ノ人ヲシテ充分ノ佛教教育ヲ受ケシメ彼等  
 自身ニ自國ノ布教傳導ヲナサシムルノ策ヲ取ラザルヘカラズ固ヨリ  
 創業ノ時代ニ於テハ派遣ノ僧モ必要ナルヘシト雖モ宗教ハ人情風俗  
 習慣言語ノ影響ヲ受クルコト至テ大ナルモノナレハ外國ヨリ渡行シ  
 テ直ニ說法スルコト甚タ難ク特ニ言語文章ニ於テハ一層ノ困難ヲ感  
 ス故ニ最モ切望シテ止マザルモノハ各國各人種ノ有爲青年ヲシテ此  
 佛教學校ニ入學セシメ彼等ヲ教育シ教理ヲ教ヘ儀式等ヲモ習ハシメ  
 而シ彼ヲ歸國セシメテ海外傳導ノ實ヲ舉グヘキコトナリ  
 近クハ支那朝鮮暹羅安南緬甸西藏印度錫蘭等ヨリ蒙古滿洲臺灣呂宋

等ノ各地ノ人種ヲ聚メ遠クハ南北中ニ横ハレル亞米利加諸國ヨリ歐  
 羅巴ニ於ケル英獨佛魯澳伊瑞西班牙葡萄牙和蘭丁抹白耳義瑞典諾  
 威士耳古ノ各國亞弗利加各州東亞細亞諸民北ハザイベリアカムサツ  
 カヨリ南ハ印度諸島濠太利亞ニユヂーラントニユカールドニアサモ  
 アフイヂーマルシヤルカコロリン等凡テ赤道以南ノ諸島ニ至ルマデ國  
 ノアラン限リ人種ノアラン限リ開明人タリ未開人タルヲ問ハズ各人  
 種中ヨリ有爲ノ青年子弟ヲ撰ヒ悉ク佛敎學校ニ入學セシメ彼等各人  
 種ノ智識相當鄉國ノ開明ノ程度ニ從ヒテ教育シ以テ萬國布教ノ基ヒ  
 ヲナスベシ但シ最初ヨリ直ニ此等各人種ヲ聚メテ教育スルコト能ハ  
 ザルヘキモ先ツ其最モ直接ナルモノヨリ始メテ漸次各國各人種ニ及  
 ホスヲ可トス故ニ初メハ佛敎ノ有志家ハ各自二三ノ外國人ノ子弟ヲ  
 自宅ニ於テ養成スベシ其結果モ甚タ大ナルベシ以上ノ論ニ就キ第一  
 困難ヲ感スルハ言語文章ノ一様ナラザルコトナレトモ早晚一度ハ佛  
 徒將來ノ布教上各人種ノ言語文字ニ通セザルヘカラザレハ此敎徒學

校ニ於テ此等ノ生徒ヲ以テ一方ニハ各國人種ノ語學文典等ヲ研究ス  
 ル敎師トナスコトヲ得ベシ佛敎學校ノ理想此ノ如シ

第十六章 佛典翻譯

萬國ノ布教ニ於テ最モ必要ナルハ佛典ノ翻譯ナリ爾ルニ世界國多ク  
 從テ言語文章亦甚タ多ケレハ急ニ佛書ノ翻譯ヲ見ルコトハ到底望ム  
 可カラス爾レモ先ツ要用ナル國語即チ最モ普及セル言語ニ由リテ翻  
 譯ヲ始ムベシ佛典數千萬卷固ヨリ悉ク譯スルヲ要セサルヘキモ尙ホ  
 千卷ヲ下ラザルベシ爾レハ今日佛徒ノ大業ハ此翻譯ニ着手スルニア  
 リ國語多キ中予ハ其第一着ハ英文ニ譯スルニアルコトヲ確信ス英語  
 ノ各國ニ行ハル、コトハ予ノ今更云フヲ要セズ英人ノ至ル所英國ノ  
 屬領殖民地皆英文ノ通セサル所ナク全世界人口ノ十分一以上ニ及ヒ  
 就中萬國中屈指ノ強盛ナル英米ノ語ナレハ是レ最モ必要ナリオルコ  
 ヲト氏ノ佛敎問答ノ如キ英文ヲ以テ成ル故已ニ十五六ヶ國ノ文ニ譯

セラレタリ此ノ如ク一度佛典モ英文ニ譯セラル、トキハ日ナラズシテ又諸國ノ語ニ譯セラルベシ

而シテ爰ニ最モ困難ヲ感スルハ良教師ヲ得サルコト是レナリ何トナレハ佛經ヲ譯スルニハ梵學ト英學ノ二ニ精通セザルヘカラズ印度英文雜誌フヂストノ記者マンマバーラ氏渡來ノ片此事ニ就キ談シタルコトアリシニ西洋ニハ學者ニシテ佛敎ヲ熱望シツ、アル良教師アルヤニモ聞ク爾ルニ今日日本ニ於テハ梵學ニ通スル學者至テ鮮ナキノミナラス英學ニ精シキ者亦甚タ多カラス是レ佛典翻譯上ニ於テ大ナル欠點ナリト謂ザルヲ得ス

第十七章 本山政論(第一)

敎法ノ世ニ行ハル、ニ敎家政道ノ必要ナルコトハ恰モ國家ニ政策ノ必要ナルト異ナルヲナシ爰ニ於テ近來各宗ノ有志互ニ政策ヲ講シ佛敎策敎會組織公認敎論本願寺論等種々ノ意見陸續トテシ世ニ發表セ

ラル、ニ至レリ又ハ僧族別置說ノ如キ尊皇奉佛大同團ノ如キ幾多ノ佛敎政策ハ新聞ニ雜誌ニ演說ニ著書ニ議論百出千人千說何レニ依ルヘキカ實ニ其煩ニ堪ヘザルニ至ル予ハ成ル可ク公平ニ成ル可ク着實ニ佛敎政策ヲ論シ本山政論ヲナシ敢テ佛敎ノ有志家特ニ佛敎政論ヲ考究セラル、諸氏即チ現ニ佛敎各宗ノ本山ニ政務ヲ執ラル、現執務家並ニ今後佛敎政論ニ於テ大運動ヲ試ミントセラル、有志諸氏ニ謀ラントスルナリ

今日佛敎内ニ於ケル政論者大別二種アルカ如シ一ハ本山維持論者ニシテ極端ナル國家的保守論者ナリ第二ハ本山分離破壞論者ニシテ是レ又極端ナル平民的自由論者ナリ共ニ是レ極端論ニシテ又各々讓ルヘカラザルモノナリ之ヲ若シ今日ノ社會政治ノ上ニ於テ見レハ所謂ル更黨ト民黨トノ兩派相對立スルカ如シ而シテ其民黨中ニ於テモ更黨中ニ於テモ又數種ノ黨派ノ存スル如ク佛敎中ニ於テモ又以上二個大別ノ下ニハ諸種ノ異見區々ナリトス然ルニ公平ナル眼ヲ以テ視ル

トキハ從來數百年間封建制度ト伴ヒ來リ殆ト其精神ヲ失ヒタル舊佛  
 教ハ今日我邦王政維新後ノ新社會文化隆盛ナル時代ニ於テハ舊來ノ  
 習弊ヲ除却シ佛教維新ノ大改善ヲ爲サ、ルヘカラサルコト論ヲ俟タ  
 ザルナリ然レトモ亦全ク本山以外ニ純粹潔白ナルビユーリタンヲ組  
 織シ來リプロテスタントヲ起シテ一ヨリ十ヨリ百粹モ弊モ併セテ  
 極端ニ舊佛教ヲ破壊セントスル如キハ頗ル省慮ヲ要スルコトナリ先  
 キニ佛教學校ヲ論シタル下ニ於テ云ヒシ如ク佛教寺院教會ハ各國獨  
 立ニ設ケ只佛教總會議所ニ於テ全体ノ一致ヲ見ルノミニシテ只一  
 ノ運動ナシ氣脈ヲ通スヘキコトヲ要スルカ故ニ各國々狀ニ由リテ其  
 教會ノ政策モ異ニスベシ東洋ニハ東洋ノ政治アリ歐洲ニハ歐洲ニ適  
 スル政策アリ米國ニハ米國の教會ヲ要シ南洋ニハ南洋諸島ニ應スル  
 教會ノ組織ヲ要ス然ルニ萬國同一ノ教會ヲ設ケントスルカ如キハ妄  
 想タルヲ免レス此ノ如ク各國各人種ニ應スル教會組織ヲ設クルハ是  
 レ佛教ノ一致スル所ナリ各國ノ政策同一ナラザル所是レ佛教ノ一致

スル所ナリ故ニ日本ニ日本ノ本山政策アリ支那ニハ支那佛教ノ政策  
 アリ爾ルニ此等ノ區別ヲ分別セス一概ニ一定一規一組織ノ下ニ之ヲ  
 論スルハ抑々議論ノ誤レル所ナリ日本ニ於テ排スルモノ或ハ却テ歐  
 米ニ適スル政策モアルヘシ又歐米ニ於テ取ルベキモノ必スシモ日本  
 佛教政策タラザルモノアリ日本ニ於テ佛教ハ國粹ナリ日本ノ國教ハ  
 佛教トナスヘント論スルハ是レ日本佛教政論ニシテ若シ佛教カ日本  
 ノ國粹ナリト云フ一邊ヲ以テ論スルハ外國ノ布教ハ望ムヘカラス  
 佛教ハ外國ノ國粹ニアラザレバナリ是レ一概ニ論スヘカラサル的証  
 ナリ宗教ト國家ト關係アルコトハ明白ナリ爾レハ日本ノ宗教ハ日本ノ  
 國家ト大關係アルコトモ明ナリ日本各宗ノ制度ハ直ニ米國ニ應用ス  
 ルコトヲ得ザルベシ是レ其政体ヲ異ニスル國ナレバナリ此ノ如ク各  
 國各社會ニ對シテ佛教ノ制度組織ヲ異ニスルコトハ更ニ佛教ノ教理  
 ニ反セザルノミナラズ益々佛教ノ真理ヲ發揚スルモノニシテ佛教ニ  
 於ケル平等門差別門ノ二大應用ナリ差別即チ平等平等即チ差別ナリ

不同ニシテ一致シ一致ニシテ不同ナル所是佛教ノ奧義ナリ中西牛郎氏云ク日本宗教ハ平等上ノ世界的ヨリスレハ實ニ世界文明ノ潮流ナリ世界進歩ノ光華ナリ世界博愛ノ旌旗ナリ又々差別上ノ國家的ヨリスレハ實ニ日本獨立ノ生命ナリ日本國粹ノ愛兒ナリ日本愛國ノ元氣ナリ然レハ將來日本國民トシテ一方ニ於テハ國家獨立ノ大義ヲ重シ一方ニ於テハ將來文明ノ進路ヲ開カント欲セハ豈復完全圓滿ナル佛教ノ眞理ニ依ラザルヲ得ンヤト是レ新佛教ノ意ヲ能ク表ハセル語ナリ故ニ萬國ニ於ケル佛教政論ト一國一社會ニ於ケル本山政策ト判然區別シテ論セザルヘカラス此等ヲ混同シテ論スルヨリ往々誤解ヲ生スルナリ

今ヲ去ルコト殆ト四百年前歐洲ニ宗教革命興ルヤ其勢力實ニ強ク遂ニ今日新教ノ隆盛ヲ見ルニ至ル然レモ予ヲ以テ之ヲ見レハ其革命ヤ一大革命タルニ相違ナキモ舊教ハ尙ホ依然トシテ存シ其儀式習慣破壊セラレザルノミナラズ却テ舊教ハ其信徒ノ數ヨリ見ルモ新教ニ倍

セリ實ニ然リ然ラザルヲ得ザルノ理由アリテ存スレバナリ

彼哲學ヲ見ヨ其時代ト共ニ進ミ人ニ依テ説ヲ異ニスルモ其説ノ眞理タルヤ直ニ之ニ依ラサルハナク理學科學皆然ラザルハナシ彼ノガリレヲノ地動説ノ如キコバニカスノ天文説ノ如キ或ハ進化説ナリ物理電氣ノ新説ナリ一時ノ困難アリタリト雖ドモ數年ヲ出デズシテ世間皆其説ヲ信シ之ヲ疑フ者ナキニ至レリ而シテ佛教ニ至リテハ新教ノ舊教ニ勝ル明ナリト雖モ人ノ一般ニ之ヲ信スル點ニ至リテハ實ニ新教ハ舊教ニ及バザルナリ是レ其理由タル前者ハ人ノ智力ニ訴ヘテ之カ革命ヲナシ得タルモノナレモ後者即チ宗教ハ人ノ感情信仰ニ關スルモノナレバナリ人ノ智力ハ道理ヲ以テ容易ニ動カシ得ベキモ人ノ感情ニ至リテハ容易ニ動カスコトヲ得ザルモノナレバナリ是レ歐洲新教ノ革命カ強大ナルニモ關ラズ其一小部ニ止ル所以ナリ

今日日本佛教ノ弊害未タ改ラズ世ノ進歩ト共ニ進ムコト能ハズシテ之ニ後レ未タ消極的佛教維新ニスラ遭遇セズ况ンヤ積極的運動ノ方

針ニ於テヲ然レモ早晩一大維新ノ風潮ハ日本佛教社會ニ起ラント  
 ス佛徒多事ノ時代ナリ是今日ノ有志家カ豫メ注意ヲ要スヘキ點ナリ  
 トス其維新ニシテ革命的ノ革命ナランニハ基督新舊兩教ノ有様  
 ノ如ク佛教内益々分離シ聯合一致ノ運動ナキニ至ラン或ハ却テ反動  
 ヲ生シ新佛教ト稱スル者ヨリモ舊佛教ノ勢力ヲ得ルニ至リ古來ノ弊  
 習何レノ日ニカ改マラン是レ深ク考フヘキコトナリ今日大改善ヲ要  
 スルハ徒ニ佛教一部ヲ目的トスルニアラズ又教内ノ爭亂ヲ起シテ騷  
 擾セシムルニアラズ唯要ハ從來ノ佛教以外ニ新奇ニ佛教ヲ創立スル  
 ニアラズシテ從來ノ佛教其物ヲシテ活佛教タラシムルニアリ故ニ成  
 ルヘク平和ノ維新タラザルヘカラズ内部ヨリシテ漸次改善シテ以テ  
 新佛教タラシムルニアリ故ニ今日ノ急務ハ佛門内ノ吏黨民黨共ニ歩  
 ヲ譲リ合ヒ新舊兩教徒調和ノ上ニ佛教ノ進歩ヲ謀ルニアリ是レ最モ  
 得策トスル所ナリ  
 予モ始メハ本山分離說ヲ可トシタル者ナリ然レモ熟々考フルトキハ

其說ノ不可ナルヲ認ム何トナレハ若シ從來ノ佛教本山ノ外ニ新教會  
 ヲ興ストナラハ舊佛教ハ如何カスヘキヤ彼レ決シテ自滅ニ歸スヘキ  
 モノニアラズ爾レハ是非トモ泥中ニ陷リタル舊佛教ノ寶玉ヲ捨ヒ舉  
 ゲ以テ其光明ヲ顯サザルヘカラズ然レハ今日ノ佛教改善ヲ企ツル者  
 ハ宜シク本山ノ政務ニ參與セザルヘカラズ又今日日本山ノ先輩モ一歩  
 ヲ譲リテ後進ノ說ヲ採用シ彼等ノ意見ヲ採用シ佛教維新ノ大業ヲ成  
 就セシメザルヘカラズ今ヤ南北佛教徒互ニ一致團結センコトヲ要ス  
 ル時代ナルニ日本内部ニ於ケル新舊兩徒水火相容レズ分離スルニ於  
 テハ不得策ナルコト明ナリ私利私欲ヲ離レテ公平ニ考フルトキハ本  
 山何物ソ歸スル所唯佛教ノ光輝ヲ顯揚スルニ外ナラズ此一心ニシテ  
 忘レザルトキハ新舊兩佛徒ノ調和決シテ難キニアラザルナリ  
 若シ其調和ニシテ成立タズトセンカ兩徒相方ニ於テ不便不得策ナル  
 コト云フバカリナシ現在其地位ニアル先輩ガ將來世界ニ於ケル佛教  
 ノ繼續者タル當時文明ノ教育ヲ受ケ佛教中興ヲ以テ自任スル諸士世

界一統宗教家タラントスル有爲有望ナル新佛徒ヲシテ反對ニ立タシメ以テ我一生ノ榮譽ヲ貪ラントスルハ抑々護法ノ精神アルモノト稱スヘキカ

又新佛徒モ先輩ニ對シテ數歩ヲ讓ラザルヘカラザル事情アリ何トナレハ唯道理ノミヲ以テ押シ通スコトヲ得ザルコトヲ知ラザルヘカラズ仮令ヒ今日歐洲近世初年ニ於ケル宗教革命ニ倣ヒ舊佛徒ヲ破壊セント欲スルモ今日我邦ノ形勢ハル―テル氏時代ト異ルコトヲ知ラザルヘカラズ仮令ヒ之ヲ同等ナリトスルモ基督新教ノ如ク殘忍粗暴ナル戰爭ヲナシ困難ヲ嘗メテ改革シタル者カ僅カニ一部ニ止マリタルニ非スヤ假令ヒ舊教ニモ其影響ヲ與ヘタリト雖厄己ニ其改革セル新教スラ今日歐洲諸國ニ於ケル如キ弊害ヲ生シテ又々大革命ヲ要スルニ至レリ此ノ如ク分離ノ上ニ分離シテ進ムトキハ何レノ日カ真正ナル改善ヲ成就スルコトヲ得ン是レ最モ注意スヘキ點ナリ又舊佛教ハ實ニ勢力アリ社會トノ關係極メテ密接ナリ從テ金力アリ交際アリ歴

史アリ是等ハ最モ必要ニシテ新佛徒ノ未タ有セザル所ナリ且ツ智力理論ヲ以テ論破シ難キ人心ノ感情ニ至リテハ新佛教家如何ニ破竹ノ勢アルモ容易ニ之ヲ動かスコト能ハズ

此ノ如ク論スルトキハ極メテ卑屈ノ論ナルカ如キモ宗教ノ維新ハ有形ノ改革ト異ナリ先ツ精神的内部ニ於テ改革ヲ受ケ漸次外部ニ向テ發揮スルヲ可トス徒ラニ外部有形ノモノヲ整フモ内部依然タラハ何ノ功力之レアラン

第十八章 本山政論(第二)

前章ニ於テ新舊兩佛徒ノ調和策ヲ論シ本山執務ノ先輩ハ新佛徒ノ輿論ヲ容レ其意見ヲ採用シ又新佛徒カ佛教ノ大改革ハ本山ヲ中心トシテ本山内部ヨリ漸次新佛徒ノ萌芽ヲ發現セシムヘキコトヲ論セリ予ハ今日現職ニ當レル本山政務家ニ對シテ二三ノ希望ヲ述ント欲ス

第一 議會論 宗教ト政治ト異ナルハ論ナシ然レハ政治上ニ國

會ヲ開キタルカ故ニ本山ニモ議會ヲ設クヘシト云フニアラズ政府ニ博覽會ヲ開ラタカ故ニ本山ニモ展覽會ヲ真似スヘシト云フニアラズ政府ニ憲法ノ制定アレハ本山ニモ宗制寺法ヲ發布スベシト云フニアラズ爾レ古來本山ノ政治ハ政府ノ舉動ヲ真似シ徳川封建時代ノ風習ハ未タ去ラズ偶々意見ヲ述ルモノアレハ絶對的ニ之ニ反セントシ佛敎有爲ノ士カ唱フル説ヲ用ヒズ甚タ專制ニ傾クモノアリ特ニ古來ノ弊習アルモ之ヲ洗除スル能ハズ或ハ全ク不正ノ役員ナキニアラズ情實ニ制セラレテ淘汰敍免ヲモ自由ニナスコトヲ得サルアリ此ノ如キ種々ナル弊ヲ去リテ末寺信徒ノ輿論ヲ問フニ於テハ最モ議會ノ必要ヲ感スルナリ新舊兩教徒ノ一致ヲ謀リ佛敎ノ前途ヲ議スルニ於テハ又最モ議會ノ必要ヲ認ムルナリ今日各宗ニ於テ或ハ已ニ議會ヲ設ケタルモアリ未タ之レナキモアリ已ニ其設ケラレタル議會ト雖モ猶未タ勢力ナキモノナリ未タ末寺信徒ノ輿論ヲ充分ニ採用スル力ナキモノナリ撰擧ニ於テモ或ハ僧侶ニ限り或ハ長老ノミニ限ル又未タ之

ヲ設ケザル本山ハ或ハ紛擾ヲ恐レ恰モ臭物ヲ入レタル箱ノ蓋ヲ開カザルカ如シ何ソ勇憤シテ議會ヲ設ケザルヤ

第二 教會組織 維新已來歐洲ノ文明ト共ニ基督教ノ駸々トシテ進入スルヤ當時ノ佛教徒ハヤレ外道ヤレ耶蘇教ナリト之ヲ誹謗シ近ツカサリキ然ルニ時移リ佛敎家モ或ハ基督教ノ會堂ニ入り彼等布敎ノ有様ヲ見又ハ彼等カ組織ヲ知り或ハ歐米ニ於ケル基督教會ノ成立ヲ研究シテ其教會制度ノ勝グレタルヲ知り以テ之ヲ佛敎ニ應用セシコトヲ計ルニ至レリ是レ基督教ノ新入カ佛教徒ニ敎ヘタルモノト謂ツヘシ從來ノ組織ニ於テハ本山末寺信徒ノ關係密ナラズ僧侶ノ監督上布敎上本山ノ政務上其不便最モ甚シトス

第三 敎職敎育 予ハ爰ニ僧侶敎職タルモノ、敎育法ニ就キテ一案ヲ出サントス是レ或ハ難キコト、シテ排斥スル人モアラン爾レ予ハ敢テ此義ヲ主張セント欲ス乞フ有志諸氏ノ熟慮アラントヲ予ハ政敎ノ一致ヲ圖ラントスルモノニアラズ爾レモ敎育ト宗敎トノ

會ヲ開キタルカ故ニ本山ニモ議會ヲ設クヘシト云フニアラズ政府ニ博覽會ヲ開ラクカ故ニ本山ニモ展覽會ヲ真似スヘシト云フニアラズ政府ニ憲法ノ制定アレハ本山ニモ宗制寺法ヲ發布スベシト云フニアラズ爾レ古來本山ノ政治ハ政府ノ舉動ヲ真似シ徳川封建時代ノ風習ハ未タ去ラズ偶々意見ヲ述ルモノアレハ絶對的ニ之ニ反セントシ佛教有爲ノ士カ唱フル説ヲ用ヒズ甚タ專制ニ傾クモノアリ特ニ古來ノ弊習アルモ之ヲ洗除スル能ハズ或ハ全ク不正ノ役員ナキニアラズ情實ニ制セラレテ淘汰被免ヲモ自由ニナスコトヲ得サルアリ此ノ如キ種々ナル弊ヲ去リテ末寺信徒ノ輿論ヲ問フニ於テハ最モ議會ノ必要ヲ感スルナリ新舊兩教徒ノ一致ヲ謀リ佛教ノ前途ヲ議スルニ於テハ又最モ議會ノ必要ヲ認ムルナリ今日各宗ニ於テ或ハ已ニ議會ヲ設ケタルモアリ未タ之レナキモアリ已ニ其設ケラレタル議會ト雖モ猶未タ勢力ナキモノナリ未タ末寺信徒ノ輿論ヲ充分ニ採用スル力ナキモノナリ撰擧ニ於テモ或ハ僧侶ニ限り或ハ長老ノミニ限ル又未タ之

ヲ設ケザル本山ハ或ハ紛擾ヲ恐レ恰モ臭物ヲ入レタル箱ノ蓋ヲ開カザルカ如シ何ソ勇憤シテ議會ヲ設ケザルヤ

第二 教會組織 維新已來歐洲ノ文明ト共ニ基督教ノ駭々トシテ進入スルヤ當時ノ佛教徒ハヤレ外道ヤレ耶蘇教ナリト之ヲ誹謗シ近ツカサリキ然ルニ時移リ佛教家モ或ハ基督教ノ會堂ニ入り彼等布教ノ有様ヲ見又ハ彼等カ組織ヲ知リ或ハ歐米ニ於ケル基督教會ノ成立ヲ研究シテ其教會制度ノ勝グレタルヲ知リ以テ之ヲ佛教ニ應用セシコトヲ計ルニ至レリ是レ基督教ノ新入カ佛教徒ニ教ヘタルモノト謂ツヘシ從來ノ組織ニ於テハ本山末寺信徒ノ關係密ナラズ僧侶ノ監督上布教上本山ノ政務上其不便最モ甚シトス

第三 教職教育 予ハ爰ニ僧侶教職タルモノ、教育法ニ就キテ一案ヲ出サントス是レ或ハ難キコト、シテ排斥スル人モアラン爾レ予ハ敢テ此義ヲ主張セント欲ス乞フ有志諸氏ノ熟慮アランヲ予ハ政教ノ一致ヲ圖ラントスルモノニアラズ爾レ教育ト宗教トノ

關係アルト明也聞ク西洋ニテハ小學教員多クハ基督教徒ナリト是レ西洋一般ニ彼教ノ普及セル一因ナリ今日日本ニ於テモ小學教員ノ大部ヲシテ佛教徒タラシムルトキハ其影響スル所必ス大ナラン今日僧侶ノ學識ニ乏ク品行ノ脩ラザルハ一ハ僧侶教育法ノ不完全ナルニ原由セズンハアラズ且ツ寺院ノ多クハ疲弊シテ自活ノ途ニ究スルモ全ク無教育ノ欠點ニ基ク者ナリ然ルニ一ケノ住職タリ通例ノ僧侶教職タルモノ、教育ハ先ツ普通教育ヲナシ師範學校ノ程度ニ由リ小學教員タラシメ懇篤ニ兒童ヲ教ヘ識徳ノ師トナリ之ヲ中年ノ業トシテ其後ニ於テ僧侶教職トナサハ普通ノ智識アルハ勿論一身ノ品行モ堅固ナルベシ爾ルトキハ年齡上ニ於テモ教育家ノ位置ヲ得且ツ自活ノ途ニ苦ムカ如キコトナシ又一方ニハ世間幾多ノ乞食僧ヲ驅リ尽ス所ノ一良策ナルベシト信ス而シテ師範校モ佛教徒ノ教員ヲ設クルノ目的タル以上ハ佛學科ヲ設ケテ之ヲ兼テ學ブコトヲ許スヘキナリ又教員タル間ニモ夏期ノ休業中ニ於テモ彼等ノ爲メニ學場ヲ設ケ又ハ教員ヲ

終リタル後ニ於テ二三ケ年間專門ニ佛學ヲ學ブモ上達スルコト早カルベシ爾レハ此點ニ於テ苦慮ナシ而シテ此ノ如キ者ヲ以テ凡テ住職教職タラシムルニ至ラハ自然今日僧侶濫許ノ弊モ去リ其數モ自ラ減シ真正ノ佛教ハ益々開發セラル、ニ至ルベシ是レ予ノ切望シテ止マサル所也今日眞宗ニ於テハ僧侶ノ子弟ヲハ悉ク僧トナス風アリ是又弊害ヲ生スル原因ナリ等閑ニ附スヘカラズ

第四 實業論 宗教者ハ固ヨリ實業ヲ本トスルモノニ非ズ然レモ國利民福ノ業ハ卒先シテ之ヲ教ヘ或ハ自ラ執リテ之ヲ導キ公益ヲ謀ラザルヘカラズ所謂ル日本往時ノ高僧カ山ヲ開キ橋梁ヲ架シ茶ヲ傳ヘ道ヲ開キ其他種々ノ發明ヲナシ文明ヲ進メタル如キ是レナリ特ニ宗教家ノ事業トシテハ慈善の事業決シテ少カラズ貧民救助慈惠病院天災地變ニ於ケル救助法即チ地難水難風難火難等ノ救濟法貧民學校ノ如キ實業上ヨリスルモ或ハ北海道千嶋等ノ開拓ノ如キ信者ヲ導キ世益ヲ圖ラサルヘカラズ或ハ出版印刷ノ如キ皆要用ナリ

第五 財政論 佛教徒ノ事業今日程多忙多端ナルトキハアラサ  
ルヘシ爾レモ先ツ第一ニ要スルハ資本ナリトス今後佛教徒運動ノ資  
本ハ從來ノ如ク唯信徒ノ寄附ノミニ由ルトキハ到底充分事業ヲ擴張  
スルコトヲ得ザルベシ爾レハ此財政ノ道モ亦講セズンハアルベカラ  
ズ予ハ信ズ佛徒資本會社ナルモノヲ設立シテ資本専門ノ部ヲ設テ專  
心實業ヲ營ミ興學布教ノ基ヒヲ確定スベキコトナリ而シテ其業ヲ撰  
ムニ於テハ予ハ深ク此所ニ論セザルナリ

世界ニ於ケル佛教徒終

明治二十六年十一月十四日印刷  
同 年 同 月 十八日發行

定價金十五錢

發行者  
兼著作者

島根縣石見國那賀郡波佐村  
大字長田三十四番地

能海寬

印刷者

日本橋區兜町四番地

栗原久吉

東京本郷六丁目

哲學書院

東京京橋三十間堀

明敎社

發行書肆

京都油小路北小路上ル

興敎書院



版權  
所有